

令和元年第12回教育委員会議事録

令和元年8月7日（水）

杉並区教育委員会

教育委員会議事録

日 時 令和元年8月7日(水)午後1時00分～午後4時18分

場 所 教育委員会室

出席委員 教育長 井出 隆安 委員 對馬 初音
委員 久保田 福美 委員 伊井 希志子
委員 折井 麻美子

出席説明員 事務局次長 田中 哲 教育企画部長 白石 高士
学校整備部長 中村 一郎 生涯学習担当部長 安藤 利貞
中央図書館長
庶務課長 都筑 公嗣 特別支援課長 正富 富士夫
済美教育センター長 平崎 一美 済美教育センター統括指導主事 東口 孝正
済美教育センター統括指導主事 古林 香苗

事務局職員 庶務係長 佐藤 守 担当書記 小野 謙二

傍聴者 20名

会議に付した事件

(議案)

- 議案第55号 杉並区立小学校において使用する教科用図書（令和2～5年度使用）の採択について
- 議案第56号 杉並区立中学校において使用する教科用図書（令和2年度使用）の採択について
- 議案第57号 杉並区立特別支援学校並びに杉並区立小学校及び中学校の特別支援学級において使用する教科用図書（令和2年度使用）の採択について

目次

議案

議案第55号	杉並区立小学校において使用する教科用図書（令和2～5年度使用）の採択について・・・・・・・・・・	4
議案第56号	杉並区立中学校において使用する教科用図書（令和2年度使用）の採択について・・・・・・・・・・	53
議案第57号	杉並区立特別支援学校並びに杉並区立小学校及び中学校の特別支援学級において使用する教科用図書（令和2年度使用）の採択について・・・・・・・・・・	55

教育長 ただいまから令和元年第12回杉並区教育委員会定例会を開催いたします。

本日の会議について、事務局より説明をお願いいたします。

庶務課長 本日の議事録署名委員につきましては、教育長より事前に折井委員との指名がございましたので、どうぞよろしくをお願いいたします。

続きまして、本日の議事日程についてですが、事前にご案内のとおり、教科書採択に関する議案3件を予定しています。以上でございます。

教育長 それでは、審議に先立ちまして傍聴の皆様方をお願いを申し上げます。会議中の私語、雑談等のご遠慮をお願い申し上げます。よろしくお願いいたします。

それでは、本日の議事に入ります。本日は教科書の採択を予定していますので、委員の皆様のご意見を伺いながら最終的に委員会としての結論を出していきたいと考えています。どうぞよろしくをお願いいたします。

それでは、議案の上程、説明は事務局よりお願いいたします。

庶務課長 それでは、日程第1、議案第55号「杉並区立小学校において使用する教科用図書（令和2～5年度使用）の採択について」を上程いたします。

済美教育センター所長から説明申し上げます。

済美教育センター所長 私から議案第55号「杉並区立小学校において使用する教科用図書（令和2～5年度使用）の採択について」ご説明いたします。

今年度、採択を行う教科用図書は、令和2年度から完全実施となる小学校学習指導要領に基づき編修された教科用図書で、令和2～5年度の4年間使用するものです。文部科学省の検定に合格した11教科13種目60種類305点の教科用図書からご審議いただくこととなります。

次に、調査事務についてご報告いたします。教科用図書の調査研究については、教育委員会が任命した委員による教科書調査委員会を設置し、規則、要綱、手引きに基づき、対象の教科用図書について専門的な見地から調査研究を行いました。その際、種目別の調査を各種目別調査委員会へ、学校別の調査を各小学校へ依頼し、その報告書を基に合計2回の協議を行ってまいりました。その協議に当たっては、教科書展示会で区民の皆様からいただいた区民アンケート83通も参考にしております。また、第2回目の調査委員会においては、保護者の方にも傍聴いただき、

委員長の求めに基づきご意見をいただいたところです。調査研究結果につきましては、7月31日に教科書調査委員から教育委員へ調査報告書と共に口頭でもご報告させていただきました。

提案理由は、義務教育諸学校の教科用図書無償措置に関する法律第13条及び第14条の規定に基づき、区立小学校で使用する教科用図書を採択する必要があるため、ご審議をお願いするものでございます。議案の朗読は省略させていただきます。

庶務課長 それでは、これより審議をお願いいたしますが、審議にあたりましては、教科書の発行者名を明らかにしてご発言いただきますようお願い申し上げます。それでは、国語についてお願いいたします。

教育長 各教科の議論を進める前に私から今回の新しい学習指導要領と、それに伴う教科書の改訂について若干概括的に触れておこうと思います。

ご承知のように今回採択される教科書は、平成29年3月に改訂され、そして来年令和2年度から実施される新学習指導要領に基づいて編修されたものです。この新学習指導要領は何ができるようになるか、何を学ぶか、どのように学ぶかという3つの柱を示し、さらに社会に開かれた教育課程の実現を目指すということにも触れています。また各教科を横断的に学習することができるようにカリキュラムマネジメントの実現が求められているところです。

これまでの学習指導要領と変わった点は、どのように学ぶかという学び方について触れているということです。これは学習指導要領の基本の考えが提示されたときに、いろいろな議論を生みました。内容について規定するということであって、どう学ぶかということは現場に任されているのではないかという議論もありました。いずれにしても教科書を編集する各出版社にしてみればこういった点をどう受け止めて、どういう内容にしていってよいかということを考えて内容の作成に努められたのかなと拝察されます。

この何ができるようになるかという点につきましては、説明によれば未来のつくり手となるために必要な3つの資質・能力をバランス良く育むこと。ではこの3つの資質・能力は何かというと、1つ目は、学んだことを人生や社会に活用する学びに向かう力。これは人間性と表現している部分もありますが、いずれにしても学ぶ力、学びに向かう力、これ

を育てる。それから、2つ目は、実際の社会や生活で生きて働く知識・技能。それから、3つ目は、未知の状況にも対応できる思考力・判断力・表現力。この3つの資質・能力をバランス良く育むことという指摘がされています。また、何を学ぶかということにつきましては減らされた内容はありませんが、ご承知のように新しく小学校の外国語学習が5年生から教科書として取り入れられる。当然のことながら教科書の編修が求められました。それからかなり話題になりましたが、プログラミング学習をどのように進めていくか。5年生の多角形のところで、五角形を正確にプログラミングで書くこと。あるいは6年生の理科の電気の分野で電気を使った様々な道具の中にはプログラミング的な発想を生かしたものがあることを題材として取り上げて、例えば人が来たら電気がつく、あるいは明るくなれば電気が消える、そういったものをどうプログラミングとして表現していくのかといったことを教科書の中に取り入れられているものもございます。

それから先ほど触れましたが、どのように学ぶかということで、大変話題になったのは、アクティブラーニングという言葉です。当初は盛んに議論されましたが、最終的には主体的、対話的で深い学びを求めていくということになりました。そしてこの主体的、対話的で深い学びを実現するために学習過程を改善していく必要があるという指摘がされています。今回長い時間をかけて教科書を読みましたが、多くの教科書がこの主体的、対話的、深い学びを目指してどのように学習過程を構成していくかということに大変苦勞をしているなというのが感じられました。課題を把握して、そこから解決すべき問題を明らかにして、そのために実験をしたり観察をしたり、あるいは話し合ったり、資料を集めたりして、そして答えを見出していく。その答えも画一化された一つの答えではなくて、様々ないろんな見方がある、そういう中でまとめて、それを次にどうつなげていくか、発展させていったり、社会や実生活に生かしていったりする場面でどのように使っていくのかというところまで丁寧に展開している教科書も多く見られました。いずれにしても今回の新しい学習指導要領に従って編修された教科書に共通しているのは、今申し上げましたような点を踏まえて編修がされたということです。

それから、いわゆるデジタル教科書が文科省からも認知されて今後普及していくこととなりますが、それと合わせて教科書にQRコードがつけ

られて、それにアクセスすると動画があったり、あるいは音源があったり、あるいは追加的な資料を見ることができたりといった工夫もされています。これまでの教科書とだいぶ変わってきたなと思われる部分でもあります。

そんなことを読み取りながら、私どもは今日の採択に向けての資料を独自に整理してきたわけです。先ほど済美教育センター所長から報告がありましたように、学校あるいは調査委員会からの報告書も大変参考になりました。各学校で先生方が得意とする教科の研究会等を中心として様々な情報を上げていただいたことに感謝をいたします。私どもが見落とししていたかもしれない部分についても克明に調査をしていただき、ご報告いただきました。また、各展示会場で寄せられたアンケートも全部目を通しました。大変専門的なご指摘をされている方もいらっしゃいます。

また、当然自分が子どもの頃の教科書に比べると大変重くなっている、大きくなっている、絵がたくさんあって、写真が綺麗でという感想を寄せられている方もいました。このことは今話題になっている重たいランドセル、つまり子どものためにと考えて大判にしてページを増やして図版もたくさん入れて、これでもかこれでもかとは言いませんが、本当に丁寧につくられた教科書はたくさん重ねてランドセルに入れるととっても重い重量になる。1冊の教科書はそこそこですが、これが各教科を重ねると、これを全部ランドセルに入れて毎日学校に持ってくるのも大変なことだなと思いました。またそういったことを指摘されているアンケートもありました。いずれにしても子どもの発達段階、あるいは体力等を考えればむやみに厚いものや大きいものを用意していくことは決して良いことではないと思いますが、それぞれ各教科、各出版社においては渾身の力を込めてつくった教科書でありますので、どうしても内容は豊富になるし、重くなるのもしょうがないかなという考えもあります。どういう教科書を選んで子どものために提供していったら良いのか、各委員と意見を交わしながら採択をしていきたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。冒頭に新しい指導要領と、それに基づく新たな教科書の特徴についていくつか触れさせていただきました。それでは、最初に国語からいききたいと思っております。どなたかご意見を伺えますでしょうか。お願いいたします。

對馬委員 国語は4社ありまして、今教育長がおっしゃったようにそれぞれ新しい指導要領に即した工夫がされているなどと思いましたが、本区は全校の学校図書館に司書を配置していきまして、学校図書館利用指導が系統的に示されているという点が2社ほどありました。その中でも光村図書の教科書の場合には全体の狙いもわかりやすく、単元の進め方も非常にわかりやすく書かれていました。学習過程がわかりやすいということと、先ほど出ました対話的などというところがありましたが、いろんなインタビューをしたり、発表したり、友達と考えを交換してみようとか、そういった活動をするようなこともたくさん出てきました。

もう一つ読書の点でいうと、6年間それぞれどういう視点で発展、読書をしていったら良いかという点を非常に明確に1年生から6年生までテーマがきちんと出ていましたので、その辺も主体的な読書につながっていく部分になるなども感じられましたので、私は現在も使っているのですが、光村図書でいかがかなと思います。

教育長 教科書調査委員会の報告の中で、学年に相応した教材の妥当性とか難しさとかそういったことを挙げているものもありました。私もどういところがそれに該当するのかなと思って見ていくと、いわゆる定番のように扱われてきた、例えば2年生はスイミーですとか、それからお手紙、これは2年から1年に降りている出版社が2社あります。両方とも1年に降りたところは1社、そういったことをもしかしたら調査委員会の先生方は指摘をしているのかなと思ったのですが、そのあたりは何かいかがですか。

久保田委員 例えばスイミー、お手紙等いままで2年生でやっていたものが1年生に降りた場合に1年生にとってどうなのか、難しいのではないかと、そういった声も聞かれました。その辺をやはり現場レベルで子どもたち、教員の使いやすさというか、その辺を考えた上で判断していった方が良いのではないかと、そんなふうに思いました。

折井委員 私は国語教育を考える際に、論理的思考能力ですとか、表現力の養成を確実に学習させるというところがとても大事ではないかと思えます。物語だとか随筆だとかを読んでいくのと並行してつけなければいけない能力だと思えますが、それを考えたときに各社どういう順番で学習の活動を配置していくかというところがやはり少しずつ違っていて、例えば学校図書の場合には、6年生の上巻でパネルディスカッ

ションをします。パネルディスカッションは自分の意見をそれぞれ言っていくというところなのですが、一方で6年生の下巻の方で自分の意見と他の意見を比較しながら自分の意見をまとめるという活動、そういった順番になっています。一方で東京書籍の方は、例えば5年生のところでは新聞記事を活用して読み比べや比較をしつつ、次に文章の構成や討論の仕方、ノートづくり方を徐々に積み上げていく感じになっています。光村の場合には、さらにその並べていく順番とといいますか、もしくはその構成、提示の仕方、練習問題も自主性を重んじつつ、子ども達がきちんとわかりやすく、身近なテーマで、自分たちで考えて取り組むような形式を取り入れながら学習を進めていくという点で、一つ頭が抜けているのかなど。各社共に論理的思考能力というところに重点はとて置いているとは思いますが、無理なく、あまりにも最初から難しいことに取り組ませるといったよりは身近なところからというところと、あと並べている順番が発達段階にあっているというか、その点で東京書籍も良いと思うのですが、光村が少しそのあたり頭が抜けているかなということを感じました。ただ東京書籍は書くことの単元にとっても力を入れているので、その点は思っていることを言うだけではなくて、きちんとした形にするという点ではすごく優れているなと感じました。

伊井委員 私は主体的な学びという点で光村図書が良いなと感じました。1年生のところは入門期の学習活動になるので、1年生の興味を引き、主体的な学びにつながるように、絵なんかもとても凝った形で構成されているなと感じています。国語の楽しさに引き込まれて、自然に引き込まれていくようなつくりになっていると思います。2年生からは教科書の始まりと終わりがとても充実していて、本当に国語の学びを見渡そうということで、2年生だったら2年生、3年生だったら3年生の学びを確かめようということで、前の学年の学びを振り返り、当該学年で何を学習するかということで、まさにその学年の目当てを見通した形の、見通しを持つことができるというつくりになっています。巻末の付録がまた充実していて、学習を広げようという形で、その学年で学習する大切なことがまとめてあり、その他原稿用紙の使い方、さらなる図書の紹介、言葉の宝箱、追加の読み物など、主体的な学びが広がる、可能性を感じるような構成になっていると感じました。

久保田委員 今回各社の教科書を見てみましたら個人的におもしろいな

と思った内容、教材がいくつかありました。例えば東京書籍で言えば、東京2020のパラリンピックであったり、学校図書で言えばオリンピック・パラリンピックを扱ったり、あるいはまた今日的な話題のAIを学校図書では扱ったり等々、やはり子どもにとってもとても興味深い内容かなと思ったところです。さらに個人的には学校図書の5年生の東京スカイツリーの比率がとても面白かったですが、そんなことを考えながらさらに今回はQRコードがいろんな教科、いろんなところで登場しており、まさにQRコード教科書版とでも言うべき時代だと改めて思いました。その中で東京書籍のQRコードの活用もとてもやりやすかったし、参考になりました。そんなことを見ながら、先ほど対馬委員から光村図書の話がありまして、私も自分が担任時代もそうですが、今もこういったかたちで並んでいるととても使いやすい、やりやすいと思うことが多々あり、今回は特に伊井委員もおっしゃっていた巻末のところがとても充実しているなと思いました。学習を広げようの巻末のところ、さらにその中に各学年すべてこの本を読もう、本の世界を広げようということで、縦の系列できちっと位置付けられているというところが今までにないのでとても素晴らしいなと思いました。そんなところで私としてはやはり光村図書を使ってみたい、そんなふうに思ったところです。以上です。

折井委員 私は小学校のときに、担任の先生がお家でとっている新聞記事を持っていらっしゃって、いろんなお友達、確かグループか何かで同じテーマのものを持ってくるというものだったかと思うのですが、新聞の比較をしました。結構国際的な記事を選べと。新聞社がどのような意図を持って、どのような扱い方をしているかということ勉強、比較をしました。それが大人になってもとても印象に残っていて、立場や説明したい意図によってだいぶ扱いが違う、そしてこちらを読み取る時に無批判に受け入れるより少しちょっと客観視しながら、ある意味批判的、論理的にきちんと読み取っていかないといけないということを小学校のときに学ぶことができたなとそのとき思ったのですが、ですので、この教科書を拝見するときに毎回その新聞記事が楽しみです。今回確か全社ともに新聞記事の比較というのが扱ってはいたのですが、掲載の意図といいますか、そのあたりがだいぶ違って、例えば教育出版では記事の文字の大きさ、小ささ、扱いが大きい小さいかですとか、学校図書は5年生向けのリレーでのバトンパスについてなど、内容的にはこ

ういうことあったなと懐かしく思ったのですが、どうしてここでこの比較をさせたいのかというところを子どもたちに考えさせるという点では少し形式的なところもあるのかなと感じたのですが、それに対して東京書籍は比較の観点がかなり明確になっていて、光村の場合にはこれは5年生の桐生選手の記事では、見つけたい違いが明確で、どの視点から記事を書いているのかというところまで、その文字が大きいとカリードの部分がどうなっているというところだけではなくだいぶ内容に踏み込んだ形、記者の取材がどの方向から行っているのかというところも扱っていたので、とても私はわかりやすいと思いました。私が勉強したときは国際問題にしなければいけなかったのも、ちょっと違うのかもしれませんが、やはり同じ新聞記事の比較をするにあたっても、どうして比較をさせたいのかといったところがやはり全部明確になっているという点もありますし、全ての教材の目的が明確で、自主性を重んじながらもかなり教科書会社の方の意図がしっかりと先生方にも伝わりやすいのが光村図書なのかなと思いました。いかがでしょうか。この全体の感じを見ますと光村図書の感じですかね、教育長。

教育長 教材の物語の配列を見ていくと、光村図書と学校図書は本当に同じです。おもしろいと思ったのは、1年は「おおきなかぶ」、2年は「スイミー」と「お手紙」、3年は「モチモチの木」、4年が「ごんぎつね」「一つの花」「白いぼうし」、5年で「大造じいさんとガン」、いろいろばらけていくのだけどこれはいわゆる定番のようなもので、言ってみれば国語の教科書になくてはならないものなのかなと思います。とは言いながら、「モチモチの木」の挿絵を見て、おっと、と思ったことがあります。これ（学校図書）は何も書いていないのです。こちら（光村図書出版）は6行あります。1行の会社と3行の会社と6行の会社と、これ（学校図書）は何もないです。学校の先生はどれが良いですかね。私が担任だったら、これ（学校図書）が良いと思います。何も書いていないから。これだけで授業をしようと思ったら字が何もなくても結構やれるなど。それからこちら（光村図書出版）は6行あるから読んじゃうのですよね。そうすると先生にはどっちが良いのかなって。たぶん腕の良い先生というか、ベテランでいろいろ指導技術に長けている先生だったらこっち（学校図書）が良いと思うかなって。でもこっち（光村図書出版）が悪いというのではないです。つまり編集の意図というか、どうい

うふうに一つのページを構成していくかということをも多分編集者はかなり議論をしたはずですが、たまたまページが過ぎちゃったから1行だけ飛び出したとかではなく、きっとここは1行も入らなくて良いように前と後ろに詰めるか入れるかして、ここを空けた。この編集者の意図と、こちらの編集者の意図を聞いてみたいなと思いましたが、まさか聞くわけにはいきません。この「モチモチの木」というのはいわゆる定番で変わらないのですが、まったくない会社とたくさんある会社と、中間をとって1行、3行という会社と。たぶん、教科書をつくる時に込めている狙いというのがいろいろあって、それぞれの思いをどういうふうを受け止めたら良いのかなということ結構悩みました。

それと、私が気に入ったものに光村の季節の言葉というのがあるのですけれど、これの5、6年生は大人向けですね。古典、季語が出てきて、それを踏まえた写真とかがあって、なるほどなと思いました。要するに子どものレベルに限定していないというか、つまり子どもだからこんなので良いやというのではなくて、それなりに読者に高い知性というか、教養というか、そういったものを求めているのだろうなと思います。子どもの能力よりもちょっと上において、そこへのアプローチをさせたいという意図があるとすれば、どう考えたかは編集者に聞いて見なければわかりませんが、あるとすればこれはまたさすがだなという感じがします。だからそういう意味で今のお話を聞いていて、個人的には部分部分で面白いところや気に入ったところがありました。教材の配列とか、先ほど対馬委員が指摘された学校図書館の利用とか、折井委員の論理的な思考を生む展開の部分とかということを考えていくと、皆さんから意見が出された光村図書で良いのだろうというふうに思いますが、良いですか。

ではまた後で議論がありましたら時間が許す限り議論していきたいと思しますので、国語につきましては光村図書出版ということにしておきたいと思えます。

庶務課長 それでは、続きまして書写についてお願いいたします。

対馬委員 書写は5社ございまして、書写の場合にはお手本を置きながらお道具も置いて書くということで、あまり版が大きいのは扱いづらいと。ただやはりお手本と実際に書くものとの大きさはできるだけ揃っていた方が良いということが調査委員会のときにもお話があったのですが、

そのときに別に国語と揃っていないなくても使えますよとおっしゃったのですが、国語の教科書と書写の教科書をよく見てみますと最初のところで姿勢の指示とか、鉛筆の持ち方の指示はやはり同じ教科書会社だと指示の仕方が同じです。これが違うとやはりなんというか、唱え言葉みたいに決まっている、そこまでずれてきてしまうので、私はその点と、それからそうやって見て光村の書写の教科書を見ていくと、イラストも非常に効果的に、とめや跳ねそういうところにも上手に使われていましたし、まとめもとても良いです。それから良い例だけではなくて良くない例も適宜示してあって、それもこうやったら良くないのかなというのわかりやすくよかったなと思うので、光村でこちらもいかがかなと思いますが、いかがでしょうか。

久保田委員 教科書調査委員会でも話題になりましたが、国語の教科書が決まるとそれに合わせて決めるのかどうかということ。これについては、特段決まりはないわけですが、ただ今までの経過をみているとやはり国語の教科書と同じ教科書会社を書写の教科書も使うということがずっと続いてきています。そんな中で今光村図書の国語の教科書で決まりましたので、では今回5社ある中でどの書写の教科書が良いだろうかと考えたときに、光村図書の場合には對馬委員からも話がありましたように、筆使いやイラスト、あとはやはりお手本がとっても良いですよ。それは私も同感です。なおかつ国語の教科書と関連性はないと言われていても、実際よく比べてみると3年の俳句をなぞろうとか、あるいは6年のやまなしとかはまさに教科書とつながる教材として登場しています。そんなことも合わせて国語の教科書が光村図書ということならば、書写も光村図書で良いのではないかと、そんなふうに思いました。

伊井委員 追加してですが、採択した国語の出版社と同一であればということで、先ほどの教科書調査の委員会の方から、新出漢字などの出てくる順番が配慮されることになるので、その点も使いやすいのではないかなというお話もありました。それから對馬委員のおっしゃっていたはらい、とめなどの指示の言葉も同感でとてもわかりやすいなど、明確に記載されているなと感じています。その他硬筆、毛筆の学びに止まらずに、手紙やハガキの書き方、道具の成り立ちにも触れている点が魅力的で使いやすいのではないかと感じました。

教育長 ほかに異論がなければ、良いですか。では書写につきましては、

光村図書出版ということにします。

庶務課長 それでは、続きまして社会についてお願いいたします。

久保田委員 今回社会科の教科書は3社です。3社ともやはり問題解決学習を踏まえた展開で全て揃っているという印象を持ちました。今回は新学習指導要領の改訂ということで、特に大きなポイントとなったのが、災害を防ぐ、防災教育に関わる部分でした。実際防災教育も学校教育の重要課題として進めていく中で、では教科としてどこが請け負うのかとなったときになかなか他ではないという中で、やはり社会科で一つそれを担うというときに、今回は4年生の単元で集中的に学ぶということが出てきました。今までならば4年生で扱っていた消防署の単元が3年生に下り、そして4年生で災害を防ぐというかたちで扱い、そして5年生でもまた違う視点で出てきて、6年生でも選択で出てくるといった形で、3、4、5、6、縦のつながりでやはり防災教育、災害を防ぐというところで各社すべて記されていました。

そんな中で東京書籍も教育出版も日本文教出版も4年生の災害を防ぐ単元はとても充実していると思いました。中でも日本文教出版の4年生の災害を防ぐ単元はページ数ももちろん一番多く割いていたし、なおかつその中に杉並区の善福寺川や、あるいは杉並区を取組、町会長さんのお話、あるいは地域の防災部長の方のお話、さらには環七の地下の調節池のこと等々、まさに杉並の地域性が直接というか、たくさん出てくるという構成になっており、4年生にとってはとても魅力的なところになっていると感じました。そういったところを踏まえた上で、3社全体的な3、4、5、6の教科書の縦の系列のつくり方というか、それを比べたときにやはり写真とか図鑑とか、あるいは統計資料等々、いろいろなもののレイアウトも含めて子どもたちの興味関心を呼びおこし、子どもたちが自ら問いを持って、そして主体的に学んでいく、調べて解決していく、そしてまとめのところまでどんな形でやっていくのか、その辺が一番揃っていたというか、まとまっていたのが東京書籍かなと私は感じました。

先日の教科書調査委員会の報告の中でも話題になりましたが、東京書籍の場合だけ6年生が分冊です。それをやはりどういうふうに考えたら良いかというところが出てきました。それで私も改めてその辺を読み直し考えたのですが、考えてみると実は6年生の印刷、歴史編と政治・国

際編、それぞれ1冊ごとにやはりすごく良い出来栄えというか、良い本になっています。だからそういった点でも内容的にもそうですが、分冊それぞれがやはり完成されたものであり、それを使って1年間の6年生の社会科を展開していくという上では支障は全くないというふうに考えた次第です。4月当初は政治単元、憲法のところから入っていきませんが、憲法の導入、扱い方も東京書籍の場合やはり良いなと思いました。それが、政治単元が終わった後、歴史分冊の歴史編を使ってしばらくずっと歴史の学習を進めていって、最後6年生の総まとめとしてもう一回政治、国際編の分冊を使ってまとめの学習をしていくというところで十分やっつけていけるなというふうに思いました。以上です。

教育長 ほかにありますか。どうぞ。

伊井委員 今の久保田委員の発言に一言だけちょっと付け加えさせていただくと、先ほど杉並区のことに触れているというところがありました。5年生の森林と私たちの暮らしのところでも区内小学校の写真が出ていたり、防災のところでは東京防災の黄色い冊子の写真などが掲載されていたりして、身近な地域が取り上げられています。この点は教科書展示会のアンケートの中にも子どもたちにとって身近なのではというご意見は書いてありました。

對馬委員 どれも流れとか全体にはとても良いと思いますが、東京書籍が見開き1ページと言いますか、開いたところで1単元がずっと流れていって、目当てもわかりやすいですし、まとめも非常にわかりやすい。そしてある程度章建てになったそこの最後のところのまとめが壁新聞であったり発表だったり、いろんなまとめ方ができる。低学年とかだとインタビューに行くとかいろんな活動をしながらまとめ方も学ぶことができる、発表の仕方も学ぶことができるという点で、東京書籍の教科書が、久保田委員もおっしゃるように私もこれが良いのかなと思います。

折井委員 私も同感で、まとめる活動で例が豊富にでていているということは、やはりお手本にできるとともに、それをもとに自分たちなりにどうしようということも考えられますし、違うところでまとめた方法をこちらの単元で使うということもおそらくできると思いますので、先生たちも活用しやすいのではないかとということと、同じように見開きで1単元ということですが、資料の配置だとか写真の位置がなんとなく決まっていて、整っているといえますか、わかりやすいといったところも種目別調査部

会からあがってきていますので、やはり全体的に見て問題解決型の学習に適している。そして見通しをもって学習に取り組むという観点からもやはり東京書籍が一番良いのではないかと思います。

教育長 先ほど久保田委員から6年生の分冊についてお話がありました。歴史をやって、政治をやって、そして国際というのが今までの大きな流れだったのが、最初に政治が出てきて、歴史の学習が真ん中に挟まってくる。そうしたときにいままで使っていたテキストを途中でやめて、次のテキストを持ってくることになるけれども、失くしちゃいましたとかどっか行っちゃいましたということはないのかなという、冗談みたいなことが議論になったのですが、これは結構深刻な話で、そんなことがあったら困るなどと思って、何人かの先生に聞いてみたら面白いことを言っていました。いつも2冊持ってくればいい、何かのときに使うかもしれないし、歴史は歴史として勉強するだけではなくて、国際社会の勉強のときだって、ちょっと振り返ってというときもあるからと。分冊にして大きく歴史的な分野と政治経済・国際社会問題に分けてはあるけれど、そういう形で両方いたりきたりしながら学習していけば、そういうことは起きないのではないかというお話も伺いました。それが私たちの杞憂に終われば良いなとは思っています。

私はちょっとがっかりしたのですが、各社QRコードの中身がそれほど宣伝文句ほどではないことです。これはたぶん社会科のような教科書はむしろデジタル教科書のように動画とか大量のデータとかそういうことを考えていて、QRコードで入っていく部分よりはもっと奥行きのある広いものを用意していきたいという考えがあるのかなと思います。そうすると今後デジタル教科書がどういう形で提供されてどういうふうに使われていくのかなということを真面目に考えていかないと、どこまで広げて考えていくかというときに教科書の文字と絵だけで学習していく場合と、QRコードで奥まで入っていく場合、またデジタル教科書のような動画や音源がたくさんあるものでいく場合と、結構子どもの認識というのは変わってくるので、現場に対する期待と負担が大きくなっているなど改めて思いました。もちろん社会科に限ったことではありませんが、社会科というのは文字で書いてあることを読み取るだけではなく、当然そこから自分の考えを広げていくということが必要になるわけで、特にそういうふうにと考えると、先ほどから説明していただいたようなことから、

もし皆さん異論がなければ東京書籍にしておきたいと思いますがどうですか。

じゃあ社会科は東京書籍ということになります。

庶務課長 それでは、続きまして地図についてお願いいたします。

久保田委員 地図帳は今回2社です。そして今回の新学習指導要領が改訂された中で、地図帳が3年生から入るということが大きな変更点でした。ということは、3年生にとって初めて手にする地図帳ということになるわけです。そんなときに3年生の子どもたちが初めて地図帳を手にしたときにどんな印象を持つかということは非常に大事なことだと思います。開いてみると、やはり東京書籍の最初の見開きの俯瞰の写真からイラストから地図にもっていくという、あの流れがすばらしいなと思いました。これはおそらく今までにない3年生の地図の導入のパターンかなと思って、これは良いなと思ったところです。その後いろいろまた4、5、6年生も使えるような形でページを準備されていたわけですが、帝国書院の方はやはり3年生の地図の導入編というような形で割とオーゾックスに入っていて、そして4、5、6年生で使えるような形で流れていくのですが、地図自体の見栄えというか、わかりやすさとか、使いやすさとか、そういったことを考えたときに、例えば帝国書院の方は日本全図の見せ方が良いなということ。あと領土の捉えもそうですが、実際に見開きでしっかり掴めるようになっていたり、それからその後、県ごと、あるいは地方ごととか、そういったページが続いていきますが、その色使いとか土地利用の様子とか、いろんな特徴がわかりやすく見やすくなっている、そんなふうに思いました。

それから地球儀の使い方について、帝国書院の場合にはわかりやすく、あるいは面白く楽しく学習できるような形で示されているページがあったりとか、その辺も一つの特徴かなと思いました。あとは世界の方の地図、その後資料編のページが続いていきます。東京書籍も帝国書院もその辺は子どもたちが使いやすく見やすくというふうに工夫されてつくられているかなと思いました。

今回QRコードが帝国書院も東京書籍もありましたが、この辺も割と使い勝手が良いかなと思います。私が今回一番良いなと思ったのは、帝国書院の地図マスターへの道という、これも初めて登場したのですが、3年生から4年生、5年生、6年生、縦の系列でなおかつ日常的に地図

帳に親しみながら楽しみながら使える。そんなもので、これはずっと3、4、5、6積み上げていくと最終的に一番最後のページの地図マスターの道が一人ひとり出来上がるととっても良いかなと思った次第です。

それから最後に一つ、東京都の位置付けが東京書籍と帝国書院を比べた場合に帝国書院の地図の方がやはり明確に東京都が見えてくるということが言えるかなと思いました。私は八丈島に3年間単身赴任した経験があるから島がどうこうということでもないのですが、ただ東京都の場合は伊豆七島をはじめ小笠原諸島を含めて島も含めて東京都というのがわかる形で示すのが基本かなと、もうずっと八丈島に行ってから今も変わらず思っています。そんな東京都の示し方がやはり帝国書院の場合はうまいなと思いました。以上です。

教育長 ほかにございますか。どうぞ。

折井委員 私も帝国書院がやはり地図帳としての完成度が高いと。本当に極めているのだなというところを見ました。一方で東京書籍は地図帳を読んでいるだけで楽しいというような感覚があって、学習者向けなのかということをおもいました。学習に役に立つ資料集というところの部分も充実しているがためにおそらく読んでいて楽しいのかなというふうに思いました。ただ久保田委員がお話されているように、あくまで社会の教科書を使うときに資料として適切な物であるということが一番大事だと思いますので、それを考えると現行もそうですが帝国書院になるのかなと思いました。

對馬委員 私も、どちらも見ていて面白いですし、とても綺麗だし、すごく面白い、楽しいなと思いつつながら見ていたのですが、やはりこの帝国書院の地図マスターへの道というのは私もいくつかやってみました。クイズに挑戦するような感じでやっていくと、なかなかちょっと難しいのもあったりして、それをやりながら、ああこのマークはこういう意味があったのだとか、こういうふうに見ていくとわかるのだなということをおもっていきことができますので、自主的な主体的な活動にもとても使えると思います。非常に面白い試みだなと思いつつ、帝国書院の地図が良いかなと思いつつ。

伊井委員 資料の分量ですが、やはり帝国書院の方は巻末の項目ごとに資料ページが豊富で、先ほどから出ているデジタル資料としてクイズ形式で学習することができるものとか、地図マスターへの道とかも考えて、

3年生から積み上げていくという点では地図から何か他の教科を学ぶときに、じゃあ地図帳を見てみようということだけではなくて、大人も楽しめるし、子どもも楽しめるという、地図から何かを学べるのかという、双方向の学びができる可能性もあるのかなというものを感じました。以上です。

教育長 ほかにありますか。私はすっかり加減。いつも思うのですが、帝国書院の地図はすっかりしている。こちらの東京書籍の方は情報がこっぴりしている。やはり子どものために、学習のためにとするとたくさん入れたくなるのかもしれませんが、数えたわけではないのでどっちがどれくらい多いかはわからないのですが、パッと見たときに地図会社がつくった地図と、教科書会社がつくった地図の違いかなと。これは失礼な言い方ですが、そういうふうに思いました。私はいつも思うのですが、すっかりしたのというのは結構見やすいなという感じで、先ほどの載られている情報とか、どちらが適切でどちらが不適切とか、どちらかが多くてどちらかが少ないとかという比較ではなく、子どもが見たときにすっかりしているのが良いかなと思いました。非常に単純ですが、結構これは使うときに目障りにならないすっかりさというのは悪くはないなという感じで見ています。それに対してそういう話ではなくてということであればもう少しお話を伺いますが。良いですか。

では、地図帳は帝国書院ということにしたいと思います。

庶務課長 それでは、続きまして、算数についてお願いいたします。

久保田委員 算数は6社あります。6社の教科書を見ながら、これも教科書調査委員会の報告会でも出ていたのですが、本当に各社同じようなパターンでつくられていて、その意味ではどれをとっても同じかなというふうにも思いました。その中で実は5年生の割合の単元について私は感じたことがありました。と言いますのは、私も30年前まだ担任をやっていた頃、5年生の算数で割合の単元が一番教えにくいとかやりにくい。子どもにとってもわかりにくい単元であったということで、今回も改めて各社比べてみました。そうしましたら、ずっと昔から変わらず、比べる量÷元にする量、いわば割合の公式ですが、比べる量÷元にする量というのは3社、大日本図書と啓林館、そして日本文教出版。この3社が比べる量÷元にする量、ずっと同じパターンです。それから同じように似ているのですが、比べられる量÷元にする量。「比べられる」と

ただ「比べる量」の違いがどうなのだというのもこの間の報告会でも論議になりましたが、比べられる量÷元にする量というのが東京書籍と学校図書、この2社でした。そして1社だけ違うのは教育出版。比較量÷基準量でした。今回初登場というか、初めての言葉というか、初めての公式で出てきたもので、いわばこれが私にとっての違和感だったのです。一体これは何だろうと。今でも、教科書を読めない子どもたちとか盛んに言われている中で、割合は比較量÷基準量という、こういった言葉でいくことが果たして子どもたちにとってどうなのかなと率直に思いました。そこからまたいろいろ議論が広がったところではあります。

でも最終的にいろいろ調べてみると、実は今回の新学習指導要領の改訂の中で算数の中で解説書を読んでも、明確に変わったのがこの比較量÷基準量、これでいくということが明記されているということでした。恥ずかしながら算数の指導書、解説書を今回初めて見たのですが、そこに割合は比較量÷基準量、これで行くのだからということが明記されていることに気がつきました。自分ではびっくりしました。ということはある意味では今回の目玉でもあるのかなと。ではこの元でつくられた教科書は結果的には教育出版だけだったのかというふうにも思いました。

他の5社について言うならば、今までどおりのつくり、今までどおりの言葉使いということもわかりました。そんなことで教育出版の4、5、6年の縦の系列をみるとやはり割合をきちっと、まさに数学的な思考を身につけさせるという意味で、4、5、6年でしっかりと身につけさせていくために、5年生のこの段階で比較量÷基準量、比較量と基準量というものをきちんと捉えさせていく、わかるようにしていくということがここにあるのだなということもわかりました。そんなところで、何か私の学んだ点ばかり言っていたのですが、以上でまず区切りたいと思います。

對馬委員 東京書籍だけ1年生のスタートがA4サイズの別冊になっていて薄くて、そこに書き込むことができ、すごくこれは使いやすいなと思ったのですが、今の割合のところを教科書調査委員会の先生から指導要領の話とかよくよくお話を伺って、教育出版だけが比較量÷基準量なのだ、明記されている通りにつくっているのだということがよくわかりました。この言葉は久保田委員のお話にもあったようにここだけではなくて段階的にこの言葉を、比べるとか比べられるとかがってなかなか難

しい、ややこしい言葉だなと私も思っていたので、比較量と基準量という言葉できちんとこの教育出版は進めているということがわかりましたので、私も教育出版が良いのではないかと思います。

教育長 これは議論になりましたね。「れる、られる論争」じゃないですが、どうして会社によって「比べる量」と言い、同じものを他の会社は「比べられる量」と言うのか。なんでこういうことが起きるのだろう。たぶんこちら側から見たら「比べる量」で、向こう側から見たら「比べられる量」になるのじゃないのなんていう話をお伺いしたことがあったのですが、確かに「れる」「られる」ですから、受け身と受け身じゃないものです。子どもは、立場によって比べる量と比べられる量が実は同じことを言っているのだと言われても、わからない。

だいたいいつも頭の中がちんぷんかんぷんになってくるのはこの辺で、こっちを元にした場合にはもう一方が比較量になるし、こっちを基準量にすればあちらが比較量になるという相対的な関係ですが、これはなかなか子どもにはわかりにくい。つまり割合のところ子どもがつまずく大きな箇所の一つですよ。3大つまずき箇所があるとすれば、紛れもなくそこが一つになろうと思います。たぶん学習指導要領を作成していく上でも議論になったのだと思います。それから教科書を編修する上でもこの辺についてはきちんと見解を明らかにして、比較量と基準量として、授業の中では比較量とは何であり、基準量とは何であるかということとは当然説明していくわけですから、その根拠になる部分の用語については整理をしておきたい。4年のときに出てきた考えを5年生で割合＝比較量÷基準量という形で定義付けて、そしてさらに6年生につないでいくというその考え方は一つの定見かなと思いました。あえてその辺の見解を調査委員会の委員の先生に伺ったら、そういうことだということでした。つまり、「れる」「られる」という曖昧なものではなくて、比較量と基準量という形で割合を捉えていくということが大事だという説明を聞いて、まあ先ほどの久保田委員のお話ではないですが、なるほどそこまで踏み込んでいくとすればこれは是とするところかなと私も感じたところです。ほかに何かありますか。どうぞ。

伊井委員 今回の議論を少し置いておいて、私は算数が苦手な人間だったので今回教科書をいろいろ拝見して、教育出版と啓林館と学校図書には目次のところにこれまでどの学年でどの単元を学んだかが明記されてい

まして、振り返りや復習、それから見直す際にとっても有効なガイドになるなど感じました。学校図書さんの表紙のデザインってとても斬新で表紙を開いたところに、5年生の下の表紙の裏のところに6年生の実態調査というのが出ていまして、国語の勉強が好きですか、大切だと思いますか、などなどの問いがある中で、国語よりも算数の方が確か必要だということもわかっていて、学習することに意味があるというふうに子どもたちは思っているのだなというふうに思って、今の子はすばらしいなというふうに思いました。それからマルバツゲームの勝つ法則はとか、そういうところで子どもの興味を引いていくという点がありました。

それから学校図書は中学校への架け橋という6年間の学習を数学的な見方や考え方から整理されたもので、それも振り返りにもなり、中学校へつなげる6年生の別冊として効果的に使うことができるので有効かなと思いました。小学校でこれほどXY、ABCなどが出ている、文字を使ってちゃんと数式を勉強しているのだということを目の当たりにして、今の子どもたちの取り組む方向性というのを本当にすばらしく感じました。その中で教育出版さんの6年生の最初のところに文字を使った式というのがありますが、その前段階のところでは誕生日は何月何日という導入が、綿密な誘導によってこれがわかるとその後も文字のことがよく分かったりするので数学への導きとしてはとっても興味深くて、私も本当にこの教科書を読みながら自分もすごく小学生に戻ったようで、こういうふうに先生が一つひとつ段を重ねるようなステップで教えていただいたり、また自分も取り組んでいたらもっと算数好きになれたかもしれないと期待値もてるものでした。本当にどの教科書もすごいなと思いました。特に啓林館がいろいろ面白くて、樹形図という言葉を使っていまして、その言い方もちょっと調べてみたりしたのですが、それも大変興味深いなと思いました。ちょっと雑談っぽくて申し訳ございません。

教育長 啓林館おもしろいでしょう。私もおもしろいと思いましたよ。使ってみたいなとも思ったのですが、使えるかなという気もして。

折井委員 私も啓林館はセンスがあるというか、数学的なセンスを磨かせたいのだろうなという、計算をできるようにするというよりも数学的な考え方、そこがすごく編集方針としてあるのだろうと思いました。

あと啓林館はノートの書き方のポイントだとか例がしっかりと出ていて、国語もそうだと思いますが、ノートの書き方が上手にできると思考

もまとまってくるので、とても良いなど。学校図書もそうだったと思いますが、そういうものが良いなどと思いました。ただ私は、とにかく算数が苦手な人間からすると、れる、られる、これは国語の勉強からスタートですか、みたいなところで、自分も記憶にないですがおそらく割合のところでは苦労したのだらうなと思うのですが、漢字を使っているから難しいというわけではなくて、観念がずっと1回入ってそれを繰り返し使ってくれたなら、もしかすると実はわかりやすい、漢字だけが並んでいるから難しいのではなく、この比較量、基準量としたことで、だいぶ子どもたちがわかりやすさが上がるのかもしれないと期待するところでもあります。

また教育出版の場合は、問題解決型の流れも学習の仕方もしっかりと繰り返し、繰り返し学ばせて、確認していくというところで丁寧ですし、解法のステップもしっかりと示しているのも、教科書を見ながら復習もしやすいのではないかと思いますので、その用語だとかそういったところもそうですし、どのように書かれているかもそうですし、あと問題をつくり出すところの例がとても自然で、子どもたちが入りやすい、導入として適切だとも思いますので、教育出版に話は集約されているのかなと思います。教育長いかがでしょうか。

久保田委員 一つ良いでしょうか。私も数学が苦手ですが、ただ算数は好きでした。今も好きなのですが、それで冒頭割合のことについて申し上げました。実は30年前自分で勝手にこのややこしい、比べる量、比べられる量について、この割合のことについては難しい算数はダジャレで解決できると教えていました。それはどういうことかということ、割合はわりやあい、割り算だぞと。割合に求めるのは割り算なのですね。割る、基準なのです。ですから必ずある比べるものがあって、基準となるものがあって、読んで基準だけ見つければ、もうしめたもの、大丈夫だということです。ずっとやっていた。ですから当時の教科書の言葉を使いながらも自分の中ではいつも基準、基準と言っていました。そのことによって子どもが解けるようになっていく、わかるようになっていくというのを経験したものですから、今回比較量と基準量が登場して、逆に自分の中では30年来のモヤモヤがすっきりしたという思いです。そんなことで冒頭申し上げました。以上です。

教育長 私はこれが大好きです。東京書籍の算数の1年の1、これはもう

大傑作ですよ。これは上・下ではないのです。意図的に入門期の10の合成・分解のところまでだけ分冊にしてあるのです。そして薄い。大きくて、子どもも文句を言わないです。1年生というのは、先生なんとかさんが筆箱落とした、消しゴムがどっかいった、ガッチャーンとかゴロゴロとか、こっち向いて、あっち向いて、静かにしてという、そういう時間に絶対なる。いろんな補助教材を使って机の上に満艦飾のようにいろんなものが乗っかってくると、教科書が厚いと開きにくい。そこにノートがあって鉛筆があって、筆箱があって、ましてやそこに算数のブロックのようなものがあつたりしたら、肘があたったとか、なんとかかとかで、先生は世話を焼いている時間の方が長くなっちゃう可能性だってないわけじゃないだろうなといつも思うのです。これは書道の時間も同じですが。この東京書籍は大胆に10の合成・分解までだけを分冊にした。1年生の4月、5月の段階はもうこれで行きましょうと。ノートの代わりにここに全部書きなさいと。ノートいりません。そうすると机の上にあるのはこれだけですよね。あとは算数ブロックなんかがあつたとしてもそんなに邪魔にならない。だから大胆にここまでよくやったなと思います。1年生の最初だけはこれを使っていたきたいというふうにできたら良いなと思ったのですが。

それからもう一つは先ほどから指摘されている割合の表現の定義。比較量と基準量、その二者の関係で整理をして「れる」とか「られる」ではなくて、説明はともかく教科書に出てくる用語としては比べられる数だとか比べる数だとかという、そのあたりを曖昧にするよりも基準量と比較量というかたちで整理をして割合の定義をきちんとわかりやすくしたということからすれば、全体的にはそっちがいいかなと。残念ながら1年生はこれを使って、そこから先は他の教科書とはいきませんが、これは大いに今後参考になる発想かなと思います。教科書をつくるにあたってたぶんいろんな人が知恵を出し合って、始まりから10の合成・分解までをこの中で学べるようにしたというのは、私は画期的な教科書だなと思います。それでは、教育出版で良いですか。

はい、では算数は先ほどの指摘を含めまして教育出版という形にいたします。

時間が1時間15分経っていますので、ちょっとスピードアップをしていきたいと思います。ではお願いします。

庶務課長 それでは、続きまして理科についてお願いいたします。

折井委員 理科は6社ございまして、各社非常によく似ている構成になっています。ただ大切なことは、学ぶ対象について自分の生活との関わりの中で、まずは自分で考えを持ち、問いを立て、その上で知識を身につけるといことが大事だと思います。各社ともに、はじめに考えてみようとか目当てがあって、その後問題をつかむというところがあり、予想を立て、実験をし、その結果が教科書にすでに各社書かれていて、それをまた考察してまとめがあり、そして次の問題につながり、そして実験に、というふうに、それでまた同じようになっていく、その繰り返し。それが一つで終わるときもあれば二つあれば、実験が三つあるようなときもありますが、基本的にその形態が同じかなと思いました。まずはそれだけ申し上げたいと思います。

久保田委員 折井委員の言われたこととも関係するのですが、ちょうど理科の学習のパターンというのはもう決まっているというか、そういった中で教科書も本当にそのパターンで各社貫かれている。この5社ともそうです。でも、パターン化されている中でも見開きページでやること、観察すること、実験すること、隣のページを見たらもうその結果が出ているというパターンはどうだろうという意見が我々の間でも出てきていました。ということでその見開きページですぐ結果、答えが見つからないものはといったときに、大日本図書と啓林館の二つが挙げられました。この二つを比較しながら実際に大日本図書の写真等々の資料の出し方、見せ方等々も含めて非常に子どもたちに、あるいは教員にとって使いやすいのではないかという意見が出ました。実際に教科書調査委員会の報告の中でも大日本図書に対する評価も出ていましたので、そんな点で、大日本図書で良いかなと思いました。

伊井委員 どの社も写真の技術が進んで実際に目にすることの難しい事象も知ることができるのは本当に素晴らしいことだなと思ひまして、その一方でやはり体験を大切にしつつ、学んでいってほしいなという願いがあります。写真やイラストに複数の児童でグループになって活動する姿や、話し合う姿が随所に見られて指導要領の中にある対話的な活動として捉えることができるのかなと感じました。大日本図書はやはり問題、予測しよう、計画を立てよう、観察、結果、考えよう、わかったことという流れがとても充実した形で明確に書いてあり、実験、観察などの活

動においてもとても説明が行き届いてわかりやすいなど、また安全面についても十分に触れているなどと思い、大日本図書のものを使いやすいのかなと感じました。以上です。

對馬委員 今までの出た話のようにやはり非常に流れがわかりやすく、どの先生でも使えるのかなと思うのですが、やはり最初に問題提起があったところに実験結果はこうだよ、まで書いてある社もありまして、そうするとまずパッと見て興味、関心というところでもう結果が見えちゃっているのは、あまり面白くないなどという感じがしたことと、それからそうではない結果になることもあるかもしれないというときにどうするのかなどというようなことが議論になりまして、一つの実験の結論がある程度出てそこからまた新たな問いで次へ進んで行くような書き方がされていたのが大日本かなと思いますので、先に久保田委員、伊井委員とおっしゃったように大日本の教科書が使いやすいかなと感じました。

折井委員 私は、教育出版が体験的学習を重視していて、資料として使える図鑑が巻末にある、それはとても良いなどと思いました。そのあたりで学習が深まるのかなと思いました。また今對馬委員がお話されたように一つの実験の結果から新たなものにつながっていくという構成はとても自然ですし、また子どもの気づきからスタートしているのもとても自然な入り方なのかなと思いましたので、私も大日本図書が良いと思います。

教育長 ほかにどうですか。私たちの生活と環境という図解が理科によくありますが、この中から消えたものがあるのです。为什么呢。原発です。各社とも描いてないです。ただ発電の仕方として原子力によって水蒸気を発生させてタービンを回すというやり方については書いてありますが、こういう熱エネルギーからはじまって、火山があつて、水力発電所があつて、火力発電所があつてと図解されているのだけど、原発が消えたのですね。また、6年生の発電のところでタービンによって発電をするやり方と、全く違う異質な発電の仕方って子どもはわかるかなと思いました。つまり太陽光発電というのはまったく違う方法ですよ。水力にしても風力にしても火力にしても地熱にしても原子力にしても共通することはタービンを回して、要するに発電機を回して発電するというやり方だけど、それに対して太陽光発電は発電機を介さないで直接発電するという方法ですから、ここはたぶん難しいだろうなど。

それで理科の先生に太陽光パネルを車にくっつけて走った走ったって言っているけど、それと教科書に出てくる手回し発電機で発電するというのは違うのだけど、子どもはわかるのかなと伺ったら、いやそれはそれとして話になったのだけど、基本的に発電の仕方を学ぶのではなくて、電力を発生させてそれを生活にどう生かすかというふうに考えるんですという説明でした。なるほどそうかとも思ったのだけど、これが中学に行くともっと難しくなってくるわけですよ。そういう意味で小学校の各教科の内容がどんどん難しくなっているということは、まあ求められるからそうなってきているのだろうとは思いますが、もうちょっと原理的な、発電だったらまさに磁場を発生させて、それによって電気が起きるという一番原理的なことを、実際にコイルを巻いたり、あるいは豆電球をつけたりして、手回し発電機で電気がついたっていう、このあたりを学ばせたい。太陽光パネルを頭につけた車を廊下で走らせていたじゃないですか。あれが遊びといたら失礼だけど、太陽光線を電気エネルギーに変える媒体としてこういうパネルがあるのだよということを学ぶことは、悪いことではないし、そういうことも知ってほしいと思うけど、できれば電力を発生させる原理というのはいろいろあるけど基本的にはタービンを回す方法があり、そのタービンを回すときの媒体として水蒸気もあれば風力とかいろいろなものがあるということを学んでほしい。

だけどそのタービンを回すためのエネルギーに何を採用するのが良いのか、それがいわゆる持続可能な社会をつくっていくためには限られた化石燃料を使って水蒸気をつくってタービンを回すのではなく、風力とかあるいはその他のものとか、そういうこともこれから求められてくる。そのために原理を知ってほしい。風が直接電気エネルギーになるわけではないですよ。何を媒体にして電力を発生させるのかということも6年生は6年生なりにわかってほしい。そういう意味ではこの手回し発電機で電気を起こすというのは大事な事かなと思います。それでこの手で回す代わりに他にどんな仕掛けがあるのか、風車でこういうふうに風力で回す方法もあるし、落差を利用した水力発電もあるしというふうに考えていくということも大事かなと思いました。教科書会社の編集方針とは違いますが、そういう中身で私は非常に興味を持ちました。そういう意味で各社が編集するにあたってこういう絵柄を何によって構成し

ていこうかというところでかなり気を使ったということがあるのかなと思います。

それから蛇足ですが、この（大日本図書）シャーロックホームズは邪魔です。グランドキャニオンにシャーロックホームズがいるのだけど、いない方が良いでしょう。グランドキャニオンの写真だけの方がずっとダイナミックでいいのに、小さくシャーロックホームズがいるから、ちょっと邪魔だなと思ったのです。このシャーロックホームズはなくなっただけいいじゃない。この文章を書くためでしょ。これが例のカリキュラムマネジメントじゃないけど、教科横断型のいろんなものということでもってきたのだろうし、苦勞しているなと思いました。さて、どうします。大日本で良いですか。ケチつけちゃったけど。私は、これを言っただけで別に大日本図書の編集の仕方について文句を言ったわけではありませんから、今までの皆さんの平均からすれば、大日本図書でよろしいですか。では、理科は大日本図書ということにします。

庶務課長 それでは、続きまして生活についてお願いいたします。

伊井委員 生活は8社ありましたが、どの出版社の教科書も写真やイラストが豊富でわくわくするようなものでした。生活では対象との出会いがとても大切で、見ることで思考力が広がるようなもの、写真、絵、観察カードなどそれも大事な要素だということでした。その中で先ほど採択されました理科に準じてということで、関連づけるわけではないのですが、大日本図書がいくつかの点で望ましいと考えました。教科書調査委員会の報告でも生活は教科書に沿って学んで行くという形態に限らず、児童の生活全般につながっていくスタートカリキュラムとして、理科や社会だけではなく他の教科とも関連して指導が及ぶものということでした。具体的な活動や体験を通して身近な生活に関わる見方、考え方を育む時間と言えるかと思います。大日本図書の教科書では写真やイラストを通じて学校、身近にある自然や動植物、地域や家庭、社会との関わりが具体的につかめるような学習活動、体験活動、いわば行ってみたい、やってみたい、できそうだなと児童が意欲を持ち、また、まち探検、自然観察、日本の伝統的な昔遊びなど、杉並ならではの事態にも合った内容がいくつもありました。杉並ならではのと申し上げたのは、杉並の学校には学校支援本部の活動としてまち探検のお手伝いをしたとか、地域の昔遊び名人や植物や虫博士をゲストティーチャーで呼び出したなどよ

く耳にします。巻末の学習道具箱は安全面への注意や道具の使い方、植物や昆虫のミニ図鑑としても活用でき、充実していると考えます。このような意味でも学校支援本部がいろいろ活動している学校では、学校ごとに独自の取組もあり、相談しながら対話につなげていくということが調査委員会の報告にもありましたので、私は大日本図書の教科書が望ましいのではないかと考えました。

對馬委員 生活8社、私たちも結構これは議論をしまして、一つは教科書調査委員会の先生からそんなにすごく教科書を使うわけではない、生活科というのはずっと教科書に沿って国語や算数のようにやるものではないということで、あくまでも見て、写真とかやり方とかこんな事例ということの例として良いものが出ているのが良いというお話でした。その中で例えば日本文教出版の知恵と技の宝箱という、たくさんいろんな例示をしてくれるページがあったり、大日本図書の場合には学習道具箱というのがやはりあったりして、いろいろな応用ができそうだなと感じました。それから子ども達の活動の中で発見カードとか気づきカードとかいう、コメントカードみたいなものの書き方とか、そういうものの例示も多くて、写真も多かったこと、それから伊井委員もおっしゃったように昔遊びなんかをしている学校が多いということでそこにも事例を多く割いているという点で大日本図書がよろしいかなと思いました。

折井委員 私も、やはり大日本図書と文教出版の2社が良いなと思ひまして、やはり巻末資料で学習を深めることもできる。でも本文のところには写真だとかイラストとかを上手に使ってあまり言葉で説明しすぎないというところでバランスが良いなと思いました。日本文教出版の場合には字等の吹き出しでちょっと気づきみたいなものを書かれているところが工夫されているなということで、こちらの方は種目別調査委員会ですとか教科書調査委員会の方でも学習活動をイメージしやすく、主体的な学習につなげられるというところで高評価を得ているなと思いました。ただやはり對馬委員がお話されたように、高いところを目指しているのかもしれないのですが、インタビューの仕方とか発表の仕方というのが出てきて、それができれば非常に良いのですが、例えば国語との関連性で考えればちょっとこのレベルがきついなという気がしました。ですので、総合的に考えるとやはり大日本図書が資料もしっかりしていて、気づきカードの例もたくさん載っていて参考にしやすいという

ことがあるなということと、もう一点昔遊びに関するところをこの間見ていたのですが、昔遊びはご家庭によるのだと思いますが、都内の子どもたちですとこうした教科書だとか学校で触れないと、意識して保護者が連れ出すということをしなるとなかなか触れられない、でもとても大切な日本の歴史でもあり今に受け継がれているものですので、昔遊びも数多く紹介しているというところも私は好感を持ちましたので、大日本図書で良いかなと思います。

久保田委員 8社の中で光村図書はちょっとイラストが多いかな、インパクトが弱いかなという印象を持ちました。啓林館のスタートカリキュラム、これはおもしろいかなと思いました。また日本文教出版も知恵と技の宝箱、巻末のものですが、これもなかなか面白いと思いました。そんなことを考えながら教科書調査委員会の報告を聞きながら、やはり大日本図書についての評価が高いということと、実際に写真等々の資料の見せ方等で子ども達が学習課題を捉えやすかったり、イメージを膨らませやすかったりといったところで先ほど他の委員からもありましたが、気づきカード等々も含めて実際の生活科の学習を進めていく上でやはり大日本図書で良いのかなと思いました。

教育長 ほかにありますか。学校図書のテーマは、みんなと学ぶというテーマで、各教科ともみんなと学ぶなんとかで、生活科はみんなと学ぶ生活です。それから大日本図書はたのしい生活。異質なのは私と生活という日本文教出版。では、私と生活ということが、どこに意識されているのかなと読んでみました。私と生活というタイトルで表現しているところがどこなのか思いが及ばなかったのですけれども、私と生活という、こういう主張は良いと思います。たのしい生活ももちろん悪くはないし、たのしい算数、たのしい社会、それからみんなと学ぶ生活、みんなと学ぶ算数、みんなと学ぶ理科だって悪くはない。こういう私と生活という、ちょっと異色な、当然これは表紙・タイトルですから編集方針でもあるわけですね。この会社の私と生活という発想をもうちょっとこの中から読み取れたらよかったなと思ったのだけど、ちょっと残念ながらこのタイトルの主張しているのがここだというところが見つからなかった。もし何かここですよという指摘があればお聞きしたいと思いました。

それともう一つは、生活科ができてからもうかなり経っているのですが、その後に社会の変化があったのです。どういう変化かということ、杉

並のように学校支援本部、つまり正式というか全国的には地域学校協働本部とかいろいろな言い方をしていますが、元祖は杉並の学校支援本部なのです。学校での学びの中に地域の人たちの力をどんどん取り入れていきたい、あるいは地域の人たちの力を借りるばかりではなくて、地域の人とともに、つまり世代を超えて学ぶことを進めていきたい。学齢に達している子どもも、とうの昔に勉強は終わったベテランも、お互いに学び合うことによって人間的な成長をしていきたいという考えが根底にあるわけですね。でも生活科が教科化された頃そういう制度的なものはなかったのです。生活科が遅れているのです。つまり世の中が杉並のように地域の方と一緒に学んでいきたい、あるいは地域の先人の知恵を学校の中に取り入れていきたい、またすでに学び終えた人も今の小さな子ども達とともに学ぶことによって、さらに人間としての力を伸ばしていきたいという、その行ったり来たり。お互いにやりとりすることによってみんなが幸せになっていくというか、成長していくという、そういう狙いをもった制度というか仕組みは、当時はなかったのです。ですから社会と理科をくっつけて、1年生と2年生は生活科というかたちで発生させたけど、今はむしろこういったより積極的に地域の人たちと学びをともにしていく、杉並の教育ビジョンの中にもあるように「かかわり」と「つながり」を大事にしていく、世代を超えた学び合いを大事にしていくということから考えると、そろそろこの杉並の意図を汲んだ生活の教科書が出てきてほしいなと私は思います。次の改訂のときに期待します。言いたいことは言いましたので、それで生活はどこにしましょう。大日本図書で良いですか。では、生活は大日本図書といたします。

庶務課長 続きまして、音楽についてお願いいたします。

對馬委員 音楽は2社しかないです。教育出版と教育芸術社の2社がありまして、教育出版の方が写真でのインパクトとかがすごく、写真の使い方がうまくて、曲へのイメージの広げ方に非常に役立つだろうなというような写真がたくさんありました。それからオーケストラの紹介のところなんかちょっと透明のページなんかを上手に使われていて、これも興味関心を引くだろうなと感じました。一方教育芸術社の方は鑑賞作品が多いのかなと、だから学習のポイントがうまくまとめられているかなという感じがしたのですが、ちょっと私は、音楽はあまり専門ではないので、細かい楽譜や音階のことはよくわからないのですが、ぱっと見の

インパクトから言うと教育出版の方が低学年なんかは学級担任も使うので、学級担任の方でも使いやすいのかなと思うのですが、専門的な先生は教育芸術社の方が使いやすいのかなと思うのですが、いかがなところでしょうか。

折井委員 私も音楽はあまりよくわからないままで、調査部会の報告等を読みますと、具体的な活動がイメージしやすかったり、ICTの機器の活用が図りやすい資料提示であったりとか、そのあたりでも教材として優れているのかなと思う一方で、教育芸術社はやはり音楽を本当に専門にする方にとっては曲の解釈だとかが書いてあるとか、ただ大きな声で歌わせる以上のところの指導をするという点ではもしかしたら教育芸術社の長い歴史を元に、その優れた学習のポイントをまとめられているという点は本区の音楽の先生にとってはとても良いのかなと。低学年の担任の先生には教育出版は確かに良いけれども、それ以降3、4、5、6となったときには教育芸術社もおそらく良いのかなと。どうでしょうか。

久保田委員 私が比べてみたときには教育出版の方が写真、特に見開きとかあるいは折り込み等々を見たときには、本当に良いなと率直に思いました。本当にイメージが湧くとか、イメージづくり、意欲付け等々で役立つなと思いました。一方教育芸術社の方は例えばQRコードですぐ簡単に音が出てくるのですが、音源とかそちらの方は教育芸術社の方が優れているかなというふうに自分でやってみて思いました。それと合わせて1年生から6年生まで年間通して各学年音楽の授業をやっていく上では教育芸術社さんの方がいろんなものを持っているのかなと、そんなふうにも考えました。

教育長 ほかにありますか。どうぞ。

伊井委員 今の皆さんのおっしゃったように、たしかに教育出版の方は新旧の楽曲もバランスよく配置されていて、新しめのものからちょっとおしゃれなものまでいろいろ取り揃えてあるのかなという感じがします。鑑賞曲や楽曲の紹介、今おっしゃったオーケストラの楽器の紹介などにも写真が多く使われて、子どもたちも本当に見ていても楽しく、児童がイメージを掴むには役立つのではないかと思います。ただ一方で少々細かく見ていくと、題材ごとに狙いとなる文言が問いかける形で記載されていて、課題が明確であり、児童に身近な楽曲が多く選択されていると

いう点では教育芸術社の方が曲としてもそんなふうな選択になっています。音楽ならではの音符や休符、記号の決まりごとなども明確に説明されていて、それが楽譜に出てきたときにすぐに説明があり、また作曲家や楽器などの説明も詳しく、興味関心を引き出して主体的に関わることができるようになるのかなというふうに感じました。巻末の方には教育出版も縦笛の指使いとか、鍵盤ハーモニカの指使いとかそれぞれにわかりやすいのですが、そういう意味では鍵盤ハーモニカの方は確かに教育出版の方が写真を使っているので子どもたちが手とかをこう見たりするにはとてもわかりやすいと思いますが、全般的に笛の押さえるところとかそういうのは巻末を開けば和音のこととか記号のこととか楽器のことも一目瞭然に出ているのが、割と低学年の方、3年生ぐらいからきちんと出ているということで、子どもたちにとっても自分から取り組んでいくには割と使いやすい。そして先生方も指導としてもそこも使いながら指導されるには使いやすいのかと思いました。

例えば3年生で和太鼓、それから4年生ではお琴の演奏の様子とかが入っているのですが、同じようにお琴の指導のところですが、お琴って弦のところに漢数字がふってあって、それが音で、番号でつなげていくのですが、それこそ学校支援本部の方が中心になってお琴の先生を呼んで指導されているような学校もあるかと思います。そのお琴ならではの楽譜などもとても見やすいかなと思いました。久保田委員がおっしゃった音源のことに関してもすぐに音が出てくるという点もありますし、本当にインパクトがあるのは、わかりやすさ、写真の使い方としては教育出版ではありますが、音楽を学習として学ぶときには教育芸術社の方なのかなと私は感じました。以上です。

教育長 報告会でも話題になったのですが、おぼろ月夜の写真ね。これ見たら絶対こっち（教育出版）の方が良い。何も書いていない。私この風景はよく知っているのですが千曲川ですね、飯山市の。妙高山と斑尾山が映っていて、まさにおぼろ月。でも、こっち（教育芸術社）は余計なことが書いてあります。せっかくの良い写真、飯山市のところの赤い鉄橋。これ、なんでこんなの入れたのでしょうかね。さっきのシャーロックホームズと同じで、これ、なくても良いのになって思います。解説に、おぼろ月の出た夜へと移っていく春の情景が描かれていますってありますが、これはそうに決まっているので、なくても話し合いなり先生が

説明するぐらいでいい。そうするとこっち（教育出版）だなど。でも音楽なのですよね。これ写真の作品をどっちが良いかと言っているわけではないので、ここだけ取ってこっち（教育出版）っていうわけにいかないのが辛いところだけど、こういうのが10点くらい揃っていて、こっち（教育芸術社）が2つくらいしかなかったら、こっち（教育出版）にしようかなと思うのだけど。これを見て不愉快になる人は絶対にいないと思います。この写真を見て素敵だなんて思って歌ってみたくなり、歌ってみたら良い歌だなんて思うじゃないですか。こっち（教育芸術社）は、写真はちょっとだけど、ここにQRコードがあって、素敵な音楽が流れてくるのですよね。そうすると視覚に訴えるか、耳に訴えるかということになる。どう考えても視覚に訴えたらこっち（教育出版）の方が素敵だと思うけど、こっち（教育芸術社）はここで音を出すと良い音楽が聞こえてくると、まあこれでも良いかなという感じがするのですが、それは先生がピアノで弾いたって良いわけで、どっちかなって悩みますよね。

私は裏表紙の使い方でこっち（教育芸術社）だなんて思ったのは、こっち（教育芸術社）は教科書に込めた願いという主張が裏表紙に書いてある。これを先生に読んでほしい。この、私たちが受け継ぐ郷土芸能。こういうことを大事にしていきたいという願いを、裏表紙を使って書いています。こっち（教育出版）は全部編集者。編集者の名前はどのように良いと言ったら怒られますが、これはたぶん見ない。こっち（教育芸術社）は見る。そうするとこれで一勝一敗。さて、どっちにしたら良いかなと悩んだのですが、委員の皆様のお話を聞いていると、私のようにこっち（教育出版）の写真が良くてこっち（教育芸術社）の裏表紙が良いというのではなく、先ほどのご指摘を受ければ教育芸術社に一日の長があるということですかね。それではよろしいですか。ではそういたします。

伊井委員 教育長、これだけ追加しても良いでしょうか。教科書展示会のアンケートで、今の教科書は新しい曲ばかりだと思っていたが、日本の名曲やわらべ歌もあってよかったという声があって、非常にホッとした気持ちになりました。

教育長 そうですね。いっぱいある。では音楽は教育芸術社ということにしておきます。ではちょうど2時間経ちましたので、ここで10分間休憩をとります。

午後 2 時 53 分休憩

午後 3 時 05 分再開

教育長 それでは、再開いたします。

庶務課長 それでは、引き続きまして、図画工作の審議をお願いいたします。

折井委員 図画工作ですが 2 社ございまして、開隆堂と日本文教出版ですが、拝見していると甲乙つけがたく、レベルの高い教科書だなと思いましたが、ただ先日の報告書では題材数が多いということはとても大切で、選択肢が豊富であると自分の教えている児童の実態に合わせて選ぶことができるということがとても重要だということを伺いましたので、私は日本文教出版が、現行でもありますが、良いのではないかなと思います。

對馬委員 私も題材数が多いということは、これも図工も教科書通りにされる方とされない方といらっしゃるかもしれないですが、やはり題材数が多いというのは非常に役に立つのだと伺ったので、それは一つ大事な点かと思います。それと日本文教出版の 6 年生だったかな、SDGs のデザインが取り入れられているところがあって、そこも杉並区の考えるところと合致しているかなと思いました。あと 5 年生の接着剤の選び方というのが図表みたいにまとめられているところがすごくわかりやすく、私はそこも気に入りました。あとは 6 年の最後にどちらの社もインターネットを使って発信をしたり、他の人の作品を見たりすることが出てくるのですが、その中に日本文教出版さんの方だけ著作権という言葉を使って気をつけましょうということが書いてあったので、これはとても大事な事かなと思いました。

久保田委員 私も、題材数の多さ、それからどちらも良くできているのですが、どちらかというとなり日本文教出版の方が題材の多さに加えて子どもにとっての説明が詳しいというか、わかりやすいかなと思いました。ということで日本文教出版の方が良いかなと私は思いました。

伊井委員 日本文教出版の方は一つの題材について豊富な取扱い例が紹介されているので、それも子どもたちが取り組むときに大変良いのかなと思います。巻末の方で道具の使い方も写真でわかりやすく説明され、様々な道具も多彩で面白く、またタイヤ、木の実、粘土、絵の具、クレ

ヨン、色紙など材料もたくさん紹介されていて、1、2年の教科書の題名通り、楽しい面白いな図画工作になっているのではないかと思います。それから吹き出しによる児童の思いや気付きがそれぞれの題材で紹介され、児童のひらめきや発想の発展にもつながり、さらなる意欲につながるのではないかと考えます。工作って個の世界だと思っていたのですが、個の世界、個の活動だと思っていたのが、教科書の中の児童の活動の笑顔を見て、仲間や人との関わりを感じる作品もあることに気づくことができ、児童の制作にとっても期待ができるなと思います。

保護者へのメッセージというところが教科書の下巻の目次の下の方にあります。1、2年、3、4年、5、6年とその保護者の方へのメッセージを教科書展示で読まれた保護者の方が、保護者へのメッセージが学年で違っており、どんなことを学んでいるかわかりづらい図画工作の授業についてわかりやすく、また子どもの学びを尊重している様子が伝わる、SDGsが載っているのが驚きで、世界に向けて羽ばたいていく杉並区の子どもたちにとって大切なことだと思ったというコメントをいただきました。保護者の方々も関心を持っていただいてありがたいなと思います。というわけで、私もこの日本文教出版の方が望ましいのではないかなと思います。

教育長 ほかにいいですか。私はこれが気に入ったのです（開隆堂）。墨から生まれる世界。これすごいなと思ったけど、こっち（日本文教出版）もすごいですね。異論がなければ今の皆さんのお話で、日本文教出版でいいですか。はい、では図画工作は日本文教出版といたします。

庶務課長 それでは、続きまして家庭についてお願いいたします。

對馬委員 家庭も2社ございます。どちらも写真が多くて、割と説明は少なく写真を見てわかるような感じの教科書になっていたかなと思いますが、開隆堂の方は栄養素の説明がわかりやすいなと思ったことと、6年の最後のまとめのところが持続可能な社会というところで明確に打ち出されていて終わりになるのです。東京書籍の方もその持続可能な社会のことは触れてはいるのですが、やはり6年の最後にそれがあるというのが次へ、中学へつながっていくときにその後の子たちにとってのそのまとめ方ってすごく良いなと思いましたので、私は開隆堂の方が良いなと思いました。

教育長 ほかにありますか。どうぞ。

折井委員 私も開隆堂かなと思います、やはり写真が見やすく、字が大きくて、印刷も製本もしっかりしているということはやはり一番の基本なのかなと思いますし、あと報告会で伺ったところでは家庭環境にだいぶ大きな違いがあると。ですので、消費者としての視点をきちんと学ばせたいと。生活体験の少ない子どもにも適した内容であってほしいということをお伺いしました。その点考えますと、開隆堂が一番適しているのかなと。生活に密着しているが故に単元の目標がぼやけやすいところをしっかりとそこを明確にしている点で教科書としては優れていると思います。

久保田委員 どちらの教科書も本当に使いやすくできているなと思いました。そんな中で例えば手縫いのところとミシンのところ、5年生と6年生の典型的な単元ですが、それを比べてみるとちょっと開隆堂の方が見やすい、使いやすい、わかりやすい、そんなふうに思いました。例えばミシンの例を挙げれば開隆堂の方は見開き2ページだけですべてわかるように入っています。一方東京書籍の方は3ページにわたっているというところもありますから、写真の質とか、あるいは絵の見せ方も含めてレイアウトも含めてちょっと開隆堂の方が使いやすいかなと思いました。

伊井委員 どちらの教科書も料理とか縫い物というよりも生活者としての視点で内容が構成されているのが小学校とはいえずばらしいなと思いました。開隆堂の方は生活の中のプログラミングとか、私たちの生活の中にある伝統文化ということに触れていて、また2年間の学習を振り返って中学の学習にも生かそうということで、生活そのもので切り離せない思考力、発想力、そういったことも必要な教科だということを改めて感じさせられました。開隆堂の方でどうかなと思います。

折井委員 ちなみにうちの息子は、今小学校5年生でして、まさに手縫いをやっていて、夏休みの宿題でフェルトを使って小物をつくってくると、つい昨日それが完成したのですが、これってどうやって先生に習ったのと聞くと動画というふうに言っていました。なので、テキストも見つつ、デジタルのものを上手に学校現場で使ってくださっているのだなと思いました。対馬委員と以前お話したのですが、この家庭科こそデジタルの教材を充実させていってくると良いなと思います。男女関係なく全ての生活者としての技術を身につける必要があると思いますので、わか

りやすくICTもしっかり使いながら進めてもらいたいなと思うのですが、やはり教科書を選ぶにあたっては見やすさがやはり一番大事なかなと、まずはそこが基本かなと思いますので、やはり開隆堂ということで良いと思います。

教育長 ほかにどうですか。持続可能な社会のご指摘が出ていましたが、この教科の基本はやはり社会ですよ。つまり家庭生活をしていく上での技術を身につけるということはもちろん当然あるわけだけど、最終的には社会の一員として、生活者としてどう関わっていくかということが当然大きな狙いとなってくるわけです。それを明確に、共に生きる地域や生活、それから持続可能な社会を生きるという形で最後にまとめるという、これは一つの形式かなと思います。家庭科の特質というか、じゃがいもの皮を剥いたりとか、人参を切ったりとか裁縫をやったりとか、ミシンでものを縫ったりとか、これは家庭生活、日常生活を支えていく基本的な技術ですから、それは当然身につけていかなきゃならないけれど、あくまでも単なる生活の技術を身につけるだけではなくて、もちろんそれを踏まえた上で社会の一員としてどう生きていったら良いかという、そういう主張を見ることはできるかなというのは改めて思いました。それでは、開隆堂で良いですか。では家庭科は開隆堂出版というかたちにします。

庶務課長 それでは、続きまして、保健についてお願いします。

久保田委員 保健については5社ありますが、この中で学研教育みらい、これが一番教員と子どもたちにとって使いやすい、そんなふうに思いました。まず学習の流れが明確になっているということと、資料、写真、イラスト等も含めて非常に配置がうまくできていて、掴む考え、調べる、まとめる、深める、そういった流れがはっきりしている、そんなところが良いなと思いました。以上です。

教育長 ほかにございますか。

折井委員 私は光文書院が良いなと思ひまして、流れとか分量も程よくて、同じ構成が続いていくということでわかりやすく、書き込みもできますし、学習課題が明確になっているというところで比較的綺麗にしっかりとまとまっているなと思ひました。以上です。

教育長 他にはございますか。はいどうぞ。

對馬委員 見開き1ページではっきりと示されているのが使いやすいと

いうふうに教科書調査委員会の方でも出ていたかと思いますが、大日本と学研教育みらいが比較的そういう意味では使いやすいかと思いますが、学研教育みらいの方が写真が大きくて流れがわかりやすい。文字がすごく多いとやはり保健の時間ですので、そこはやはり写真で見て進んでいくというのがとても大事なのかなと思います。あと書き込みもしやすくなっているの、こちらが使いやすいのかなと思いました。

伊井委員 私も学研教育みらいが良いと思いますが、見開きでということ、情報量がちょうど程よいと言いますか、たくさん目からいろんなことが入って来過ぎたり、文字から入って来過ぎるよりも、児童が自らの生活行動や身近な生活環境において課題を見つけるにはその方が、またその結果、より良い解決策を見いだしていくには簡単かというと、シンプルに見開きで、また大きさがちょっと大きいので写真などもわかりやすくなっていますので、学研教育みらいの方が使いやすいかなと思いました。以上です。

折井委員 お話を伺っていると、確かに学研教育みらいはちょっと大きめで、こちらもとても見やすいなど、ワークシートが書き込みやすそうな感じがします。書き込みであることがとても重要で、それが使いやすさとイコールとは言わなくても、とても大切ということ。また、学研教育みらいは1時間の学習の進め方がとてもはっきりまとめているので見通しを持つことができるという観点でも優れていますので、それを考えると学研教育みらいで私も賛成します。

教育長 保健の学習もやはり問題解決型の学習過程なのですよね。今は全ての教科がそういう意味では問題を把握して、そしていろんな情報を集めて、考えて、まとめる。つまり結論やしかるべき方向性を見出していくというつくりですから、どこもそうになっているわけだけど、そのときに不親切なぐらい情報が少ない方が良いという考えもあれば、読んで進んでいけば大体結論に行き着くという、そういう親切な教科書もあって、どの辺が適当な量なのかなといつも悩むところです。もう何年も前の話で私は忘れられないのだけど、前の馬場委員長がおっしゃっていたのですが、雨降り保健ではない、雨が降ったときにやることがないから保健でもやるかという、そういうことではないのだと。今までは体育というと、体を動かすことが中心だったけど、保健体育だから、年間の学習計画に従って学習していくのだ。雨降ったときだけやるわけじゃないって、あ

の指摘をされたときに、なるほど、そういうことだから教科書の編集も課題を把握して、そのときそのときで適切な情報を整理しながら深めていくのだなということに改めて思ったのです。そういうふうに考えていくと、今はどの会社も薄くなって、たくさんをあれもこれもと盛り込んでいるわけではない。年間35週として30時間、2年間に分けてやるとしても、せいぜいそのくらいだとすると、厚さもこのくらいの厚さというかページ数、どこもそうですよね。そんなにたくさん情報が入っているわけではない。そういうときに残ってくるのは使いやすさということかなと思うのですが、さっきの見開きから1ページで大体収まるようになっていくという指摘があったのですが、そういったことは使いやすいことにつながるかなということですよ。まあここじゃなきゃダメという意見はなかったのですが、大方の意見からすれば学研教育みらいで良いですか。では保健は学研教育みらいといたします。

庶務課長 それでは、続きまして、英語についてお願いします。

對馬委員 英語は7社ありまして、今回初めて教科書ができて教科化されるということで、非常にどこも工夫はされていまして、初めて拝見する教科書なのでとても楽しく読ませていただきました。大きな特徴として日本語での説明が結構たくさんある、だから私なんか読んでいて非常にわかりやすいことをいっぱい書いてあるところと、そんなでないところというのが一つ。それからやはり写真やイラストのインパクトがすごく大きくていろんな活動が出てくるというようなところと、どちらかというとなら説明的な部分があるのかなというところとか、いろいろそれぞれ特徴がありました。あとは国際的な発展でいろいろな他の国のことが出てきて、外国語という、英語というのも外国語という授業になるので、その中の英語なので、そういうことも、中国語とか韓国語とか、どうやって読むのだろうというアラビア語みたいなものとかいろいろ出てきているところなんかもありまして、これを使って授業をしていくというのは面白そうだなとどれも感じました。

そういう中で、例えば日本語が割と少なくていろんな情報量が適度に多くてというところが使いやすいのかなと思うのですが、私の好みというか面白そうだなと思ったのは、プレゼンの活動とかが結構あるなと思ったのが、三省堂のクラウンジュニアです。それから巻末もよくまとまっていて、授業の流れとかもわかりやすいなと思いました。それから東

京書籍のニューホライズンエレメンタリー、こちらも日本語の使用が割と少なく、いろんな活動が紹介されていてこれも面白そうだなと思いました。とりあえず以上です。

教育長 ほかにありますか。

久保田委員 7社教科書を拝見しました。どの教科書もやはりすごく工夫されていて、5年生、6年生が楽しみながら英語を学ぶことができるなと感じました。その中で全体的に語学テキストなのかなという印象も持ったのですね。5、6年生の英語、そして教科書は語学テキストという位置付けでいって良いのかどうかということも今回考えました。そんな中で私は東京書籍の教科書の5年、6年の内容構成というか、まさに自分の身近からスタートして、6年生の方では国際理解、文化理解の方につなげていくという、それが私の中ではやはり英語の教科書、小学校の5、6年の英語で求めるべきことなのかなという気がしたところですね。というのは、そもそも外国語活動が小学校に入ってきた出発点にそのことがあったからなのですね。その上に立って今回の5、6年生の英語の教科化ということで、やはり大事な国際理解、異文化理解ということは内容的に絶対外せないのではないかなと思いました。

それともう一つ、単なる英語でのやり取りができれば良いのかということ考えたときに、決してそうではないのではないかな。当然その中身、内容が問われてくるわけで、その中で5、6年生の内容構成が大事になってくる。今スモールトークというか、いろんなネタが必要になってくるし、中身を子どもたちが持っていくということも大切かなと思います。なおかついろいろ英語を学んでいく上で基本的な語彙とか、あるいは文型その他、そういったものも5、6年生の中できちんと押さえていく必要があるわけで、そういうことを考えたときにピクチャーディクショナリー、小さな冊子というか、パンフレットというか、これが私にとっては非常にわかりやすかったというか、子どもにとって役立つものではないかなと考えました。しかも3、4、5、6の縦の系列を考えたときにも、あるいは中学校に向けてということ考えたときにも5、6年生の段階できちんとこれが押さえられているとやはり子どもたちが自信をもって英語の学習に取り組んでいける、そんなふうにも思いました。いろんな使い勝手が考えられる便利なものかなと思いました。それともう一点、今回のいろんな教科書、今回の英語もそうですがQRコードを私も何

回も試しましたが、東京書籍のQRコードは自分でも勉強になりました。
以上です。

教育長 ほかにございますか。

伊井委員 私は東京書籍と啓林館が一つずつ丁寧な進め方をしているという点で、東京書籍の方は音に出会う、会話になれる、コミュニケーションを楽しむ、世界を広げる、そして学びを確かめるという学習の流れがわかりやすく、子どもたちも入りやすいのではないかと感じました。また、外国語の背景にある文化に対する理解も、理解を深めていく、他者に配慮しながら主体的にコミュニケーションに関わろうとする学びに向かう力につながるのではないかと感じています。目についたのは、大変フレーズが短い簡潔なフレーズで学びに入っていけるという点が目を開いたときに思ったことなのですが、同様の点で啓林館の方もフレーズとして短めのものでトレーニングしていくという取り組み方が子どもたちにとっても入りやすいのかなと感じました。以上です。

折井委員 私は英語が専門ですので少し長めになります。久保田委員がお話されましたように英語の教科化がされたからといって、外国語の活動であるということは変わりがないということ、そして学習指導要領でも、一つ目は外国語を用いて積極的にコミュニケーションを図ることができるよう指導するという点で、二つ目が日本と外国の言語や文化について体験的に理解を深めるというふうに並び立っています。ですので、久保田委員のお話されましたように、やはり外国語の文化について理解させられるような教材が入っているということが非常に重要で、それを考えますと、東京書籍が毎課、後半にOver the Horizonというところをやっています。また世界のすてきというところでは映像を使っていて、まあ映像を見れば体験的ということではないのですが、やはり映像があると実感しやすいというところで望ましいようになっていると思います。あと教育出版は世界の子どもの様子を映像で見るところから学習を開始しています。先ほどの東京書籍とは逆で、東京書籍の場合には導入は身近なところで、国内で学習し、それを海外の異文化につなげていくのに対して、教育出版の方は身近な事柄を基本的にその科では扱うのですが、世界の子どもの様子を映像で見るところから学習開始をする。また光村図書出版はワールドツアーという点で、映像で体験的学習をしているということで、この3社は非常によくその点が入っている教科

書だなと思いました。他社も1学年に一つとか二つとか世界のことを扱っているところ、例えばどこどこに行きたいとかという、外国に行くという設定だったり、世界の衣食住だとかそういったところで扱っているのと、加えてリスニング教材として外国の例を挙げるというのがメインになっています。ただやはり、今回その外国語活動を引き継ぐものとしてはやはりある程度きちんとその部分が入っている方が良いのかなと思いました。

先ほど同じく久保田委員がお話されたようにピクチャーディクショナリーは私もこれは本当に良いなと思いました。他にも三省堂と啓林館は巻末のワードアンドフレーズですとか、ワードリスト等あって、やはりひとまとめになっていると、それを使って既習のものをももちろん各課で学んだ単語があってそれを探せば良いのですが、やはりそれをやっていると総合的なコミュニケーション活動がしづらくなるので、やはりこうやって一つのまとまりになっているのは良いなと思いました。特に東京書籍のピクチャーディクショナリーというのは5、6年生両方で使うということですので、特に日本語も使わずにかなり充実した、やはり冊子になっているぐらいですので、分量も、内容量も多いので、やはり使い勝手があるかなと思いました。

それから構成についてがやはりだいぶ各社異なっていて、すっきりとどちらかというところと聴解活動、リスニング活動からやり取り、発表活動へストンとつなげていく会社と、例えば開隆堂出版、学校図書、三省堂もちょっとそういうところが部分的にあるのですが、どちらかというところと間にチャントだとか歌、ゲーム、それからリーディングだとかストーリーを入れているのです。これが学習項目と関連性があればもちろん積み上げの一部になるのですが、関連がないものが中に入っているということで先生がもし順番どおりにすると、リスニングをして一回やり取りをした後にリーディングで関係ない話を読むことになって、その後もう一度コミュニケーション活動になります、ちょっと途切れてしまうのです。なので、私としては外国語活動ではいろんなことをいろんなふうにするということは今までよくやってきたと思いますが、やはり英語科となったときにはある程度コミュニケーションのところまで最後まで持っていくということが絶対的に必要ですので、それを考えると、どちらかというところとシンプルな構成の方が良いのかなと思いました。そのシンプル

な構成というのは東京書籍、それから教育出版もとてもシンプルでリスニングの後に話す活動をしています。光村図書出版も構成がとてもシンプルです。啓林館も大体同じ感じになっています。

ここからが本当に選択になると思いますが、他にも開隆堂出版は各活動がまとめてあるので、モジュール使用ができるのではないかという報告もあります。実際にモジュールでやるとしたらこれが良いのかなと思いました。あと三省堂のクラウンジュニアに関してはプレゼン活動が各学期の最後に配置されているのがとても良くて、今は一部の学校しかやっていないパフォーマンステストを区内のほとんどの学校でやりたいとなったときに、自然にそのプレゼン活動の練習を指導して、最後にそれを評価する、パフォーマンステストに持っていきやすいので、これは非常に指導がしやすいと思いました。また光村図書出版に関しては発音のポイントがページの下にありますので、音声学専門のものとしては、これはとても良いなと思いました。なので、東京書籍、それから光村、啓林館あたりは構成が比較的シンプルな、あと教育出版もそうなのですが、ただここで最後に選択するにあたって、皆さんが何度かおっしゃっているように東京書籍良いなというところで私も同感なのですが、担任の先生が教えることもある、専科の先生の中でも経験に差があるというところを考えると、できる限りコミュニケーション活動が円滑にどのクラスでもうまくいくようにした方が良くと思うのですが、それにあたっては、一段階ずつ丁寧な進め方をしている教科書を選ぶことが大切だと思います。

具体的に申しますと、リスニング活動を一番最初にやるのはインプットを与えるという点で各社同じなのですが、次のステップが異なっています。リスニングの後にすぐに何々をやってみようというふうにスピーキングの活動をポンと提示しているテキストがいくつかあるのですが、そうではなくてその途中過程、どんなふうに準備をすれば良いのかな、もしくはどういう順番で何をどんなふうに言えば良いのかなというモデルが出ているもの、それはそんなに多くなくて、東京書籍がとても優秀でした。ここは一段階ずつ丁寧に進めていると同時に文章例もあるので。なので、正直ちょっと紙面がガチャガチャしている感じがあって、賑やかだなというイメージがあるので私は光村図書のもうちょっと穏やかな静かな方が好きなのですが、ただ子どもたちはわからないなりに英

語に取り組むという中でこの部分を入れ替えれば良いねという文例があって、それで入れ替えをしてみず試してみて、何度か練習して最終的にはピクチャーディクショナリー等を使いながら、そしてスモールトークもたくさん題材が出ています。なので、そのスモールトークをピクチャーディクショナリーを既習事項で用いながら発表活動まで持つていくというところがとても丁寧に、そして余分なものもないというところで東京書籍が良いと思いました。光村図書出版も個人的にはとても良いなと思ったのですが、文章量だとかそのあたりのことがしっかり出ているのを考えますとやはり東京書籍が一番良いのかなと思いました。

一点だけ残念なのが、主体的な学習というところで他社は全部チェックタイム、まとめ、振り返ろうとかルッキングバックとかいろいろあるのですが、東京書籍だけがない。Check your stepsということで作品を貼ろうというところはあるのですが、そこだけがちょっと手薄なのかなと思いました。やはり担任の先生の専科のまだ経験の浅い先生でも確実にコミュニケーション活動を深めることができるのは東京書籍かなと思いました。長くなりました以上です。

教育長 私はいまだに、小学校5年生から英語を教科化して勉強するようになって大変だなんて思っています。教科書を見ると余計に大変だなと思うのです。子どもが1年間で習得する中身は、我々が中学と高校の一部でやったことに匹敵するぐらいの内容ですよ。3、4年生から外国語活動で耳がなじんでいているとはいえ、負担はかなりのものがあるだろうと思います。子どもはどうして外国語を勉強するかという議論をしていく中で、それはやはり幸せな人生というか、自分の人生を豊かなものにしていくということに行きつくだろうと思います。つまり違う国の言葉で違う国の異なる文化を理解すること、それを取り入れていくということは自分の生活もまた豊かになっていく。それからもう一つはやはり平和な世界をつくっていくということだと思います。つまり深い意味で言葉が通じないことによって、お互いを理解し合う手段としての言葉が不十分だったばかりに無用な誤解を生んだり、あるいは軋轢を生んだりするという、初歩的なつまずきというのはなくなってくるだろう。目の前に現れた全く肌の色も喋る言葉も違う人と恐れることなく話をしたり、あるいは身振り手振りで関わったりしていくということは、それはもう当然人間性を豊かにしていくことに尽きるわけです。

そうすると英語が上手に喋れるようになるとか、英語を使ってワールドワイドな世界で頑張る人材を育成するというためだけに英語という教科があるのではなくて、やはり一人ひとりの子どもが豊かな人生を送っていく、人間的に豊かな人になっていくためにあるということが基本だと思います。それは英語だけではなくて国語もそうだし、音楽もそうだし、なんでもそうだけど、特に新しい教科として英語が入ってきたということの根底は、そもそもの始まりであった異文化理解、つまり自分たちと違うところで違う文化をもって生きている人たちと仲良しになるということあるのですよね。子どもに異文化理解なんて言葉を使ったりしてちんぷんかんぷんですけど、いろんな国の人と言葉が違って仲良しになれることができるのだよ、でも仲良しになるためにはやっぱり相手の言っていることが少しはわからないと難しいよね、じゃあ英語ができるようになったら素敵だなというふうに子どもが思えないと、負担ばかり大きくなって、英語なんてやりたくないよという子が絶対出てくると思うのです。

そういうことからどういうふうに英語の学習を進めていったら良いかということ、済美教育センターでこの間検討してきたのは、英語活動で一番最初の出会い、つまり、ALT（外国人英語指導助手）との出会いを大事にしようということ、日本語がよくわからない、身振り手振りでやっと通じるぐらいで相手の言っていることもこっちの言っていることもよくわからないかもしれないけど、握手をしたりハグをしたり関わっている中で、こういう人もいるのだということを知ってもらうためには、1、2年生の英語活動の指導は、なるべく我々が日頃接している人とは違うALTとの出会いを大事にしたいという考えから予算の組み方もそれを中心とした計画を立てたんです。つまり外国語という教科との出会いではなくて、違う文化を持った一人の人間、あるいは二人でも良いですが、との出会いを大事にしてあげたい。そしてそこで興味を持ったり感心を持ったりして、もっと知りたいだとかもっと分かりたいと思う。そのためにはHelloも言えなきゃいけないし、Thank youも言えなきゃいけない。Helloって言ったりThank youって言ったりすれば相手は喜ぶし、自分も気持ちに通じて良い気分になる、そういう出会いを大事にしたいということで、外国語活動の時間、小学校5、6年の外国語教科としての外国語の時間、それから中学の3年間の英語、そして高校受験

が後ろに控えているわけだけども、できる限りそういう豊かな人間性を育てていく、そのための手段となるような英語の学びであってほしいという考えはずっと変わりません。

それはみんなが共通に理解していることだと思うけど、ちょっと長くなりますが、そうすると教科書を見て嫌になっちゃう子がいたらかわいそうじゃないですか。これ見て、これやるのって思って、もう明日から学校行きたくないって、英語の時間が苦痛になっちゃうようなのはかわいそうだなと。できれば簡単で、中身が少なくても、でも英語の時間は楽しいというもの。こうなると担任の先生というか英語の専科の先生の力量が問われてくるわけですね。中身があまりなくても英語の時間を展開できるくらいの力量を持った人もいれば、もうこれと首っ引きでやらないといけない人がいるわけだから、さあ、そういうときに使うものは何が良いかと考えました。それで、折井委員の話を知りたいなと思っていました。つまり私は基本的に簡単で少なくても、嫌にならなくて、結構おもしろいなって、そういう中身になっているものがとにかく入門期については必要かなと。そうすると英語を勉強しなさいという指示を日本語でいっぱい書いてある教科書よりは、あーでもない、こうでもないってやり取りしている中で身につけていく、だけど耳から入ってくるだけではなくて、きちんと言語として理解していくためには文字も必要だし、それを表現する体の動きも必要で、そういうのがなんとなく子どもに身につけていってくれたら良いなと思っています。さてそれで、だったらこれが良いですよというのがあれば私は納得するのですが、だいたい今話を聞いていて、なるべく少ない方が良い、それから簡単なところから入って行って、次にやるのが構造化されていて、パターン化していければ、急に難しくなったりしないということとか、担任の先生でもなんとか使えるのではないかとということとか、いくつかの条件を整理していくと、お話の中の東京書籍とか光村とか、啓林館も魅力的と言っていましたよね。そのあたりになっていくかなというところですよ。

それと、これが話題になりましたよね、東京書籍のピクチャーディクショナリー。これは東京書籍の算数の1年生の入門期の別冊と同じくらいのヒットですよ。これはアイデアだなと思います。だけどこれで教えるわけではないですよ。でもこれは良いネタになりますよね。とい

うまあちょっとまとまらないお話をしましたが、気持ちはそういうことです。ほかに何か意見がありましたらちょっとお聞きして絞りたいと思います。なにせ初めての採択ですから、こうじゃないとダメとか、これは絶対とかというふうにはならないかもしれないけど、こんなところでどうという意見があれば一点に絞っていきたいと思います。追加で何かありますか。

折井委員 個人的に光村もシンプルでとても丁寧で、紙面も落ち着いているので好きなのですが、あと啓林館もとても丁寧でワードリストも巻末にあります。なので、良いと思うのですが、啓林館の場合少し異文化理解のところはかなりちょっと薄いかなというふうに、コラムでの扱いなのでやはり少し小さいです。その点で少しどうかなというところで、私の中では光村図書出版か東京書籍かなというふうに思うのですが、一つは先ほどの教育長がお話されましたように、身近なところからスタートしてというところを考えると、やはり世界のことは、インパクトはあるのですが、少しちょっとかけ離れているところがあるので、確かに身近なところから始めていくのが良いのかなというところと、あと東京書籍は、最初はアルファベットで自分の名前を言うというところですごくゆっくりなスタートをしているのです。実際に持っていきたいゴールはとてもレベルの高い教科書だと思います。たとえば、学校図書の場合ですとどちらかというで一問一答というので情報の短いやり取りの方がメインなのですが、例えば東京書籍だとぐっと本当にまとめて発表させよう、三省堂もそうですが、まとめて発表できるようにという、学習指導要領のやり取り、発表という発表のところもかなり小学生でもやらせるというところ。目指すところは高いのですが、最初のスタートはゆっくりで、かつ、これは賛否両論あると思いますが、チャンツだとか歌だとかストーリーがちょっと薄いのです。なので、本当に賛否両論あると思いますが、やはりコミュニケーションの教えることがいっぱいあるとやりきれないかなという気がしますので、そのあたりのところは教育長がお話されたように、ALTの先生と1、2、3、4でしっかりやってもらって、うまく年代分けをすれば東京書籍のところは難しい、いわゆる本来コミュニケーションをとるというところ、コミュニケーションを、やり取りをしっかりと何度も続ける、それから発表するというところまで持って行かせるためのツールをしっかりと用意している。スモールトークだとか

というネタ、ピクチャーディクショナリーという資料があって、しかもお手本的なものもしっかりあって、それも最初は入れ替えだけで良いよと。入れ替えのモデルも載っているのはここだけ、しっかり出ているのはここだけなので、そのあたりでも担任の先生でも行けるかなというふうに思います。身近なところからスタートというのも実は良いのかなと、インパクトは若干かけるのですが、良いのかなと思いました。

對馬委員 折井委員から今光村もなかなか良いのだけどもというお話がありました。私は、光村は良いかもしれないけど、ちょっと日本語の使用量が、日本語の指示といいますか、それが多くなっていると思います。

折井委員 そうですね、それはとても気になりましたね。

對馬委員 そういう感じがして、私は英語より日本語の方が得意なので、日本語の方がわかりやすいのですが、ただやはり英語の教科書と考えたときに日本語がちょっと目障りなとか、言い方を変えると、多いかなという感じがしまして、東京書籍のさっきから話題になっている別冊のピクチャーディクショナリーですが、これはなかなか、最初見たときにはあまりよくわからなかったのですが、教科書を見てこれを見ていくと、ああ、これはすごく使い勝手が良いなという感じがしまして、これをうまく使って授業を進めてくださると、やりやすいのではないかなと。子ども達も入れ替えとかをするとき楽しんで、絵がたくさんあるので最悪英語が読めなくても、わからなくてもこれってやることのできるのかなって。そういうところからでもコミュニケーションってできるのかなと思うと、これが一冊あるのはなかなか良いのかなと感じます。

教育長 子どもが嫌にならない、楽しい英語になるようにということですよ。なるほど。出尽くしましたか。良いですか。まだ何かございますか。

折井委員 一点だけ気になるのですが、我が息子は今5年生で、6年生から今度教科書を6年生で使うのですが、5年生に配布されるであろうピクチャーディクショナリーを6年生でももらえるのでしょうか。そこだけ気になるのですが、せっかくなのでやはり教科書をきちんと利用するためにはピクチャーディクショナリーは必須だと思うので、是非付けてもらいたいなというふうに思います。

済美教育センター所長 ちょっとこれはまだ、調べたのですが、まだはっきりわかりませんので、確認中です。

折井委員 必要ですというふうに、声を大にしていればと思います。

教育長 6年生には5年生の教科書も一緒に渡すというわけにはいかないですよ。教科書の法律からいうと。当該学年の教科書を給与するということですよ。

庶務課長 給与の形でいくとそういうふうになります。

教育長 6年生はかわいそうですね。だって教科は5年生から始まるわけでしょ。

折井委員 心配ですね。今4年生のお子さんは良いと思いますが、今度6年生になるときに、やはり教科書がとても求めているものの内容がだいぶ豊富なので、5年生の部分がなくて6年生となると、やはり少々心配なところはありますね。とはいえ、教科書採択はまた別問題なので、やはり一番良いものを、そして丁寧なものを選ぶというのが一番大事かなと思います。

教育長 学習のつながりは教科書採択とは別なので、杉教研の教科部会とか学校とかと良く調整しながら、無理なく入っていけるような工夫をしていく必要はあろうかと思います。これほどこの会社の教科書を採択しようと同じことですので、是非お願いします。それでは、初の採択になりますが、小学校の英語の教科書は東京書籍でよろしいですか。ではそれで決定します。

庶務課長 それでは、続きまして、道徳についてお願い申し上げます。

伊井委員 道徳は8社ございます。一昨年ですが、教科となった道徳について時間をかけて検討し、採択を行いました。それが現行の東京書籍の教科書です。本格実施となった昨年度から区内小学校において授業が実施されている中今回の採択となりました。道徳に関してはより良く生きるための基盤となる道徳性を主体的に養うためにふさわしい内容となっているか、児童や学級の実態に即して、教師の創意工夫が活かされる内容となっているか。特定の価値観を児童に押し付けることなく児童が自立した個人としていかに生きるべきかを自ら考え続けることができる内容となっているか。今回各社いくつかの教材となるものが、作品が入れ替わっておりますが、内容項目としての主として自分自身に関すること、主として人との関わりに関すること、主として集団や社会との関わりに関すること、四つ目が主として生命や自然、崇高なものとの関わりに関すること。この内容項目に対して検討し、多様な教材がバランス

よく配置されているという点で、この現行の東京書籍の教科書が望ましいと私は考えました。いじめのない世界へというくくりで、各学年に教材をまとめている点や、教科としての道徳の取組も始まってまだ1年が過ぎたところという点も踏まえて、もう少し東京書籍を使った形の授業の展開を捉えていった方が良いのかなと思います。以上です。

教育長 ありがとうございます。ほかにございますか。

久保田委員 ちょうど2年前のここの場所での論議の中で私が申し上げたのは、問いは少なく、その中で子どもたちがまず一人でよく考え、そして考え合うという形で深めあっていくのが道徳の授業なのではないか。ということでこれは今も変わらず思っています。その中で実際にこの1年とちよつとの間、各学校を訪問したり見学したり、研究会等で道徳の授業を見る機会が多くありました。その中でやはりうまくいかない道徳の授業というのは、例えば東京書籍の教科書を使っても、ワークシートを使ってやるとほとんど良くないです。失敗します。どうしてかという、せっかく大きな問いが二つくらいあるにも関わらず、余分いろいろな枠をつくってしまうのです。そうすると子どもたちがやる活動というのはひたすら書く活動になってしまう。自分で考えて、あるいは互いに考えたり話し合ったりという授業になっていかないのです。そういった点で、教科書を東京書籍だけにすれば全てうまくいくということでは全然ないのですが、問いはあくまで絞りつつ、その中で1時間の授業の中で子ども達にしっかり考えさせ、そして考えあい、話し合わせというスタイルをもっと広げていく、つくり上げていくべきかなと今思っています。そんな考えのもとで、各社見た中で、やはり今回も基本的な路線は変わらない、内容も変わらない東京書籍の教科書で良いのではないかと考えています。

折井委員 発問が少ないということがとても大切だということは前回伺っていて、それを考えると、東京書籍、光文書院、学研になるのかと思いますが、もう一つ前回も問題になった分冊論議。分冊である時点で書き込み欄が増えるのは当然。なので、分冊であると書き込む欄が多くなり、ワークの冊子版になるわけですね。なので、分冊でない方が良いでしょう。なので、書く作業は国語でメインにやって、道徳は話し合いをする、議論をするというところが大切なんだというところで、分冊でない方が良いでしょうということで、そうすると分冊である学校図書、日本文教出版、あ

かつきあたりはちょっとその点では本区の希望とはちょっと違うのかなと思いました。あと発問が少ないというところも久保田委員のご意見にプラスすることになりますが、ある一つの答えにたどり着くための授業ではない、議論をして例えばクラス30人いたら25人はこういう意見かもしれない、でも5人違う意見がある。その違う意見も、ああそうなんだね、そこを理解し、なるほどそういう意見もあるんだって、そこが一番大事なのかなと思います。なので、ある特定の価値観にもっていきこうとしたり、もしくは発問で誘導したりというのではなくて、発問が少なく、そして自由な発想と議論をしっかりとするというところで、子ども達が考えを深めていくような授業をしてもらいたいということになるとやはり東京書籍あたりが一番適当かなと私も思いました。

對馬委員 私も同じですが、主体的に考える、道徳的価値観を押し付けるのではないというところで、前回のときにもたくさん議論をして東京書籍を選びまして、多少教材の入れ替わりはあったとしてもほとんど変わっていないということと、これを現場で使っていて、久保田委員のおっしゃる通りちょっと失敗した授業もいくつかあるかもしれませんが、まだ使い始めたばかりで特にこの教科書ではやりづらいという声も上がっていないと伺っていますので、この教科書をもう少し使っても良いのかなと思います。

伊井委員 この教科書を使いながら取り組んでいる学校の授業を拝見しましたが、先生方の方でも授業づくりをして、子ども達もやはり議論をするごとに、回数を重ねることですごく手もよく上がるようになっていくなど感じます。慣れということではなくて、そういう議論をいとわないうでやっていくというような形が出来上がっていきつつあるものを見ると、やはりあなたの考え、私の考え、みんないろんな考えがあって良いよ、答えが一つじゃない道徳ということで、議論をする道徳ということですが、そんなふうに他者を認めるという点でももう少し時間をかけてこの東京書籍の教科書で発展していく、授業を発展したいかなと思っていますので、東京書籍が良いかなと思います。

教育長 皆様からこの件を伺いましたので、東京書籍でよろしいですか。それでは、道徳は東京書籍ということにいたします。

これで以上全ての種目を終了いたしました。ここで再度種目ごとに確認をしてから最終的な決定をしたいと思っておりますので、庶務課長から全

ての種目についての発行者名の読み上げをお願いします。

庶務課長 はい。「国語」光村図書出版。「書写」光村図書出版。「社会」東京書籍。「地図」帝国書院。「算数」教育出版。「理科」大日本図書。「生活」大日本図書。「音楽」教育芸術社。「図画工作」日本文教出版。「家庭」開隆堂出版。「保健」学研教育みらい。「英語」東京書籍。「道徳」東京書籍。以上です。

教育長 ありがとうございます。それでは採決を行います。議案第55号につきましてはただ今のとおり採択することにより異議ございませんか。

(「異議なし」の声)

教育長 それでは、異議はございませんので、議案第55号につきましてはそのように決定いたします。

庶務課長 それでは、引き続きまして日程第2、議案第56号、「杉並区立中学校において使用する教科用図書（令和2年度使用）の採択について」を上程いたします。引き続き済美教育センター所長からご説明いたします。

済美教育センター所長 引き続き、私から、議案第56号「杉並区立中学校において使用する教科用図書（令和2年度使用）の採択について」ご説明いたします。教科用図書につきましては、通常、概ね4年ごとの周期で行われる検定に合格した図書の中から採択が行われますが、検定が予定されていた昨年度は、中学校教科用図書につきましては、検定に合格した申請図書がなかったことから、平成26年度検定合格図書の中から改めて採択することとなります。なお、今年度、令和3年度から実施される新学習指導要領に基づき編修される中学校教科用図書の検定が予定されているため、今回、採択する教科用図書は、令和2年度1年間に限って使用する予定となっております。今年度採択を行う教科用図書は、義務教育諸学校の教科用図書の無償措置に関する法律に基づき、平成30年度の文部科学省の検定に合格した「特別の教科 道徳」を除く、9教科15種目66種類129点の教科用図書の中からご審議いただくこととなります。

次に、調査事務についてご報告いたします。教科用図書の調査研究については、教育委員会が任命した委員による教科書調査委員会を設置し、規則、要綱等に基づき、対象の教科用図書について専門的な見地から調

査研究を行いました。その際、種目別の調査を各種目別調査委員会へ、学校別の調査を各中学校へ依頼し、その報告書を基に合計2回の協議を行ってまいりました。今年度の種目別調査、学校調査につきましては、文部科学省の通知に基づき平成27年度の各調査結果を活用し、現在、使用している教科書の使用実績を踏まえ、一般財団法人教科書協会から示された、平成27年度からの教科書変更箇所と照らし合わせ調査研究を行っております。教科書調査委員会における調査・研究にあたっては、教科書展示会で区民の皆様からいただいた区民アンケート48通も参考にしております。調査研究結果につきましては、7月31日に教科書調査委員から教育委員へ調査報告書とともに口頭でもご報告させていただきました。提案理由は、義務教育諸学校の教科用図書は無償措置に関する法律第13条及び第14条の規定に基づき、区立中学校で使用する教科用図書を採択する必要があるため、ご審議をお願いするものでございます。議案の朗読は省略させていただきます。

庶務課長 それでは、ご審議のほど、よろしくお願いたします。

教育長 今、済美教育センター所長から説明がありましたが、来年1年間の使用ということです。それから、私も読みましたが、修正箇所は新たに生まれた事実について修正をしているのであって、記述等の間違いについてはないということです。この採択の基本的な流れとしては、新しい学習指導要領に基づいて編修される教科書は、中学校で全面実施になる機に合わせて当然全面的に見直す必要が出てくる。ついては、今回は大幅な改訂がないということと、新たに検定を通過した教科書もないということ、そういうことからすれば、新学習指導要領が実施される前年の来年1年間は現行の教科書を使うということが望ましいと私は聞いていたのですが、それでよろしいですか。

済美教育センター所長 そのとおりでございます。

教育長 いろんな考えはあろうかと思いますが、そのあたり委員の皆様はいかがでしょうか。

對馬委員 私も同じように思います。私は実は前回の中学校の教科書採択のときには教育委員ではありませんでしたので、その場にはいなかったのですが、今回4年前の議事録等を拝見しながら、また現行の中学校の教科書も見てきました。また、この間各中学校の授業の様子を見る中で、実際にそれぞれ今使っている教科書の問題点等も聞いておりませんし、

また先日の教科書調査委員会の報告を聞いた中でも問題点は出ておりません。その後新たな教科書も発行されておりませんし、現行使っている教科書を継続していくことが生徒たち、教員をはじめ学校関係者にとって良いことではないかなと思っています。ということでもう1年間継続しようということが妥当ではないかと考えています。いかがでしょうか。

教育長 ほかにはいかがですか。良いですか。それでは、他にご意見がなければ本件の議案を採択したいと思います。議案第56号につきましてはいずれも現在使用している教科書を採択することに異議ありませんか。

(「異議なし」の声)

教育長 それでは、異議はございませんので、議案第56号につきましてはそのように決定いたします。念の為に庶務課長から種目ごとの発行者名を読み上げてください。

庶務課長 それでは、ただいま採択をいただきました中学校の教科書の発行者名を種目ごとに改めてお知らせいたします。いずれも現行の教科書ですので、議案に添付の採択候補一覧において網掛けで表示をしているものということになります。「国語」光村図書出版。「書写」光村図書出版。「社会（地理的分野）」帝国書院。「社会（歴史的分野）」帝国書院。「社会（公民的分野）」帝国書院。「地図」帝国書院。「数学」教育出版。「理科」東京書籍。「音楽（一般）」教育芸術社。「音楽（器楽合奏）」教育芸術社。「美術」日本文教出版。「保健体育」東京書籍。「技術・家庭（技術分野）」開隆堂出版。「技術・家庭（家庭分野）」開隆堂出版。「英語」東京書籍。以上15種目です。

教育長 ありがとうございます。

庶務課長 それでは、引き続きまして日程第3、議案第57号、「杉並区立特別支援学校並びに杉並区立小学校及び中学校の特別支援学級において使用する教科用図書（令和2年度使用）の採択について」を上程いたします。引き続き清美教育センター所長からご説明申し上げます。

済美教育センター所長 引き続き、私から、議案第57号「杉並区立特別支援学校並びに杉並区立小学校及び中学校の特別支援学級において使用する教科用図書（令和2年度使用）の採択について」ご説明いたします。特別支援学校及び特別支援学級で使用する教科用図書につきましては、「義務教育諸学校の教科用図書の無償措置に関する法律」などの関係法

令に基づき、毎年採択を行っております。また、特別支援教育の教科用図書の採択については、「学校教育法の附則第9条の規定」に基づいて行っておりますが、特別支援学校については「学校教育法施行規則第131条第2項」、特別支援学級については「同第139条」において、一般図書を使用することができる、と規定されております。小学校教科用図書の調査研究と同様、規則、要綱等に基づき特別支援教育教科書調査委員会を設置するとともに、特別支援学校及び特別支援学級からの調査報告を参考に、合計729点の図書について調査研究を行いました。

調査研究結果につきましては、7月31日に特別支援教育教科書調査委員から教育委員へ調査報告書とともに口頭でもご報告させていただきました。提案理由は、「義務教育諸学校の教科用図書の無償措置に関する法律第13条及び第14条」の規定に基づき、区立特別支援学校並びに区立小学校及び中学校の特別支援学級で使用する教科用図書を採択する必要があるため、ご審議をお願いするものでございます。議案の朗読は省略させていただきます。

庶務課長 それでは、ご審議をお願いいたします。

對馬委員 こちらは例年やっていることだと思います。特別支援の先生方が目の前の子ども達を見て教科書を選べるように、全体的に教科書として採択していると思いますので、提案されたものをそのまま採択してよろしいかと思います。

教育長 ほかにございますか。よろしいですか。それでは、他にご意見はございませんので議案の採決を行います。議案第57号につきましては特別支援教育教科用図書候補一覧のとおり採択することに異議はございませんか。

(「異議なし」の声)

教育長 それでは、異議はございませんので、議案第57号につきましてはそのように決定いたします。

以上で本日本日予定されておりました日程は全て終了いたしました。庶務課長連絡事項をお願いします。

庶務課長 次回の教育委員会の日程ですが、8月28日水曜日の午後2時からを予定しております。よろしくお願いいたします。以上です。

教育長 それでは、本日の教育委員会を閉会いたします。長時間に渡りましてありがとうございました。